

2025年度
(第42回)

授業公開講座受講案内

神戸松蔭大学

目 次

■ ■ 概 要	2
■ ■ 申し込みのきまり	2
■ ■ 受講について	3
■ ■ 提供科目一覧表	4
■ ■ 授業内容・授業計画	7
■ ■ 時間割	60
■ ■ 注意事項	61
■ ■ 本学からのお知らせ	62
■ ■ 学内案内図	63
■ ■ 本学の位置及び交通機関	64

授業公開講座

■ 概要

神戸松蔭大学では種々の公開講座を開き、広く一般の方々によき学習の場を提供したいと願っております。その中で、本学の学生のために開講されている講義の一部を学生の受講に支障のない範囲で開放しているのがここにご紹介する「授業公開講座」です。受講者は学生と机を並べて共に学ぶこととなります。奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

● 受講資格

満18歳以上の者(2025年4月1日現在) ※ただし、対象学年が2年生以上の科目については女子に限る

● 授業期間

前期:4月7日(月)～8月5日(火)

試験および補講・補習日 7月23日(水)～25日(金)、30日(水)、31日(木)、8月1日(金)、2日(土)、4日(月)、5日(火)

後期:9月26日(金)～12月23日(火)、2026年1月7日(水)～2月9日(月)

試験および補講・補習日 2026年1月27日(火)～30日(金)、2月3日(火)～7日(土)、9日(月)

※ 期間中、学校行事、講師の都合等で休講となることもありますのでご了承ください。

休講予定: 11月7日(金)3～5限(大学祭準備のため)、11月8日(土)終日(大学祭)

12月5日(金)1～2限(クリスマス礼拝・祝会) ※事前にご確認ください。

※ 試験および補講・補習日は必ずしも授業が行われるわけではありません。

● 受講料

半期1科目/10,000円(本学関係者は5,000円)

※ 本学関係受講者とは、神戸松蔭大学在学生の父母、及び神戸松蔭女子学院大学・短期大学部(短期大学・女専も含む)卒業生です。

■ 申し込みのきまり

● 申し込み期間

締切日:3月7日(金)[必着]

後期科目につきましても上記期間にお申込みください。

※ 締め切り後の到着分は無効となりますのでご注意ください。

● 申し込み方法

下記4点をご送付ください。

1) 授業公開講座申込書(ダウンロード可)

※ 太枠内を漏れなくご記入ください。

2) 証明写真(縦4cm×横3cm・カラー)

※ 証明写真以外は受け付けません。ご自分で撮影、プリントアウトしたものは不可。

※ 写真裏にお名前をご記入ください。

3) 授業公開講座受講生証 発行台紙(ダウンロード可)

※ 氏名欄にご記入の上、2)の証明写真をお貼りください。

4) 110円切手

送付先: 〒657-0015

神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1

神戸松蔭女子学院大学 教務課 授業公開講座係 宛

※ 個人情報履修にかかわる事務手続以外に使用いたしません。

■ 受講について

- 受講者決定 募集人数を上回る申し込みがあった場合、受講者の決定は抽選により行います。その結果は3月末日までに封書（授業公開講座科目決定通知）でお知らせいたします。
正規学生の受講者が3名以下の場合には不開講となります。（4月下旬決定）
- 受講料納入 受講料は、「授業公開講座科目決定通知」に記載の振込先に振り込んでください。本学窓口での受け付けはできません。
 - 1) 振込期間：3月31日(月)から4月4日(金)まで（期間厳守をお願いします。）
 - 2) 後期開講科目についても同じ期間内に振り込みをお願いします。
 - 3) **振り込まれた受講料はお返しできません。**正規学生の受講者が3名以下で不開講となった場合(4月下旬決定)は、受講料を返金いたします。
 - 4) 期間中に手続きをされない場合は、受講取消とみなします。
- 受講生証の発行と手続き期間 本館3階教務課窓口に必要な1) 2) をご持参ください。引き換えに授業公開講座受講生証、授業公開講座受講のてびきをお渡します。
 - 1) 本人確認書類
運転免許証、パスポート等の氏名、生年月日、現住所が記載されているもの。
 - 2) 受講料の領収書（銀行利用明細）
 - 3) 手続期間 4月7日(月) から 4月11日(金)まで 9:00~17:00（日曜・祝日は取扱いません。）
※ 前期科目をお申し込みの方は**最初の授業時間前に教務課窓口にお越しください。**
(システム登録の手続きに20分ほどかかります。)
- 授業に関する注意事項
 - (1) 各授業では学習支援システム「松蔭 manaba」を使用する場合があります。
 - (2) 遠隔授業を受講する場合はパソコン環境、通信環境を整えていただくことになります。
 - (3) 担当者等の都合により、**対面授業から遠隔授業に変更する可能性があります。**その場合は本学学生と同様「松蔭ポータル」や学習支援システム「松蔭 manaba」で連絡します。
 - (4) PC 必携の科目があります。シラバスにて確認してください。

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始日	募集人数
諸宗教とキリスト教	前期	2-3	木鎌 耕一郎	火曜	13:10~14:40	4月8日	5
現代社会とキリスト教	後期	2-3	木鎌 耕一郎	木曜	14:50~16:20	10月2日	5
こころの健康	前期	1-2	中井 和弥	火曜	13:10~14:40	4月8日	5
こころの健康	前期	1-2	中井 和弥	木曜	10:40~12:10	4月10日	5
神戸研究総論	前期	2-3	単位認定者: 田附 敏尚	火曜	14:50~16:20	4月8日	5
社会心理学	前期	1-2	待田 昌二	木曜	14:50~16:20	4月10日	5
フランス語ⅡA	前期	2	打田 素之	水曜	9:00~10:30	4月9日	5
フランス語ⅡB	後期	2	打田 素之	水曜	9:00~10:30	10月1日	5
ビジネス中国語A	前期	2-4	古川 典代	火曜	10:40~12:10	4月8日	5
ビジネス中国語B	後期	2-4	古川 典代	火曜	10:40~12:10	9月30日	5
韓国語コミュニケーションA	前期	2-4	金 智英	木曜	13:10~14:40	4月10日	5
韓国語コミュニケーションB	後期	2-4	金 智英	木曜	13:10~14:40	10月2日	5
Essential Intercultural Studies A	前期	1	F.Shiobara	水曜	14:50~16:20	4月9日	5
Essential Intercultural Studies B	後期	1	F.Shiobara	水曜	14:50~16:20	10月1日	5
英語コミュニケーション概論A	前期	1	川中 紀子	火曜	14:50~16:20	4月8日	5
英語コミュニケーション概論B	後期	1	川中 紀子	火曜	14:50~16:20	9月30日	5
コンピューティングA	前期	2	P. Spaelti	木曜	10:40~12:10	4月10日	3
コンピューティングB	後期	2	P. Spaelti	木曜	10:40~12:10	10月2日	3
アジア文化入門A	前期	2	金 智英	火曜	14:50~16:20	4月8日	5

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講 区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始 日	募集 人数
アジア文化入門B	後期	2	古川 典代	火曜	14:50~16:20	9月30日	5
中国語通訳翻訳演習	前期	3-4	古川 典代	金曜	13:10~14:40	4月11日	3
日本書道史	後期	1	丸山 果織	水曜	10:40~12:10	10月1日	8
文法の基礎知識	後期	2	田附 敏尚	火曜	10:40~12:10	9月30日	8
演劇とパフォーマンスの歴史	前期	3	柘井 智英	月曜	10:40~12:10	4月7日	5
演劇と現代社会	後期	3	柘井 智英	月曜	10:40~12:10	9月29日	5
古典文学特殊講義	後期	3	長谷川 佳男	月曜	13:10~14:40	9月29日	8
感情・人格心理学	前期	2-3	山本 竜也	金曜	13:10~14:40	4月11日	5
発達心理学 A	前期	2	久津木 文	木曜	9:00~10:30	4月10日	5
発達心理学 B	後期	2	久津木 文	木曜	9:00~10:30	10月2日	5
心理療法 C	前期	3-4	坂本 真佐哉	金曜	9:00~10:30	4月11日	5
心理療法 D	後期	3-4	小松 貴弘	金曜	13:10~14:40	9月26日	5
青年期の臨床心理学	後期	2-3	黒崎 優美	水曜	10:40~12:10	10月1日	5
教育・学校心理学	後期	3-4	黒崎 優美	水曜	9:00~10:30	10月1日	5
対人コミュニケーション論	後期	2-3	待田 昌二	金曜	14:50~16:20	9月26日	5
被害者支援の心理学	後期	3-4	大和田 攝子	水曜	13:10~14:40	10月1日	5
食生活論	前期	1	川口 真規子	木曜	10:40~12:10	4月10日	5
神戸論	前期	2	江 弘毅	月曜	10:40~12:10	4月7日	5
家族文化論	前期	3	稲見 直子	水曜	14:50~16:20	4月9日	5

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講 区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始 日	募集 人数
色 彩 学	前期	2	花田 美和子	金曜	9:00~10:30	4月11日	5
化 粧 心 理 学	後期	3	鳥居 さくら	木曜	10:40~12:10	10月2日	5
神 戸 の 食 と 文 化	前期	3	江 弘毅	木曜	9:00~10:30	4月10日	5
ジェンダーとファッション	後期	4	戸田 賀志子	木曜	13:10~14:40	10月2日	5
デジタルデザイン論	後期	1	山本 浩司	火曜	13:10~14:40	9月30日	10
イ ン テ リ ア 史	後期	1	鈴木 亮太	火曜	13:10~14:40	9月30日	5
ブ ラ イ ダ ル 演 習 A	前期	2	西川 良子	金曜	10:40~12:10	4月11日	5
ブ ラ イ ダ ル 演 習 B	後期	2	西川 良子	金曜	14:50~16:20	9月26日	5

※対象学年が2年生以上の科目については女子に限ります

諸宗教とキリスト教

前期 4/8(火)~

木鎌 耕一郎

火曜 13:10~14:40

授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・日本人の宗教観と日本宗教史の基礎について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・ユダヤ教とキリスト教の関係史について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性)
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明) (PC 必携)</p> <p>第2回 宗教の起源(考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム) (PC 必携)</p> <p>第3回 神話(神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判) (PC 必携)</p> <p>第4回 儀礼(宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション) (PC 必携)</p> <p>第5回 諸宗教の礼拝形式(1)(様々な礼拝、祈りの表現) (PC 必携)</p> <p>第6回 諸宗教の礼拝形式(2)(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教) (PC 必携)</p> <p>第7回 日本人の宗教観(宗教統計調査、宗教意識の国際比較)一第1回まとめテスト (PC 必携)</p> <p>第8回 日本の宗教概観(神道、仏教、神仏習合) (PC 必携)</p> <p>第9回 西洋文学とキリスト教(ダンテ、『神曲』) (PC 必携)</p> <p>第10回 日本文学に見るキリスト教の受容(芥川龍之介、遠藤周作) (PC 必携)</p> <p>第11回 国教制度と政教分離(西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離) (PC 必携)</p> <p>第12回 西洋におけるユダヤ教とキリスト教の関係史(エクレスシアとシナゴーク近代革命、ハスカラ) (PC 必携)</p> <p>第13回 反ユダヤ主義の思想的根拠(無神論、フォイエエルバッハ、マルクス、ニーチェ) (PC 必携)</p> <p>第14回 現代におけるユダヤ教とキリスト教の対話(第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世) (PC 必携)</p> <p>第15回 宗教間対話の展開(講義の総括と展望)一第2回まとめテスト (PC 必携)</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習:シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間:2時間) ・授業後学習:授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間:2時間)
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に2回のまとめテストを実施する。 授業方法 ・この科目はBYOD(パソコン必携)科目なので、授業にはパソコンを持参すること。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時 manaba のコースコンテンツから資料を配信する。
参考書	石井研士『プレステップ宗教学(プレステップシリーズ 08)』弘文堂 小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』(平凡社新書)

現代社会とキリスト教

後期 10/2(木)～

木鎌 耕一郎

木曜 14:50～16:20

授業のテーマ	現代社会の倫理的諸問題とキリスト教
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。(知識・理解)・現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。(知識・理解) 現代社会の倫理的課題を理解することを通して、日常の暮らしの中にある倫理的課題を発見できるようになる。(汎用的技能)(態度・志向性)
授業計画	第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明)(PC必携) 第2回 西洋思想史における人間の尊厳(PC必携) 第3回 キリスト教と人間の尊厳(PC必携) 第4回 東洋的人間観とキリスト教(PC必携) 第5回 隣人の範囲設定と社会的正当化(PC必携) 第6回 優生思想(PC必携) 第7回 日本のハンセン病政策 一第1回まとめテスト(PC必携) 第8回 人工妊娠中絶と養子縁組制度 出生前診断(PC必携) 第9回 アメリカ社会と人工妊娠中絶(PC必携) 第10回 生殖補助医療の現在(PC必携) 第11回 尊厳死、安楽死(PC必携) 第12回 脳死と臓器移植(PC必携) 第13回 難民問題(PC必携) 第14回 環境問題(PC必携) 第15回 講義の総括と展望 一第2回まとめテスト(PC必携) *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none">・授業前準備学習:シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。(学習時間:2時間)・授業後学習:授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間:2時間)
授業方法	基本的に講義形式だが、一部の授業でグループワークを行なうことがある。 この科目はBYOD(パソコン必携)科目なので、授業にはパソコンを持参すること。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時manabaのコースコンテンツから資料を配信する。
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』(東信堂) 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問い直す』(上智大学)

こころの健康

中井 和弥

前期 4/8(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解
授業の概要	本講では、こころの健康に問題を持つ人を理解し、援助するための実践的な心理学を学ぶ。具体的には、まず精神障害や心理的な問題、不適応行動を学習する。その上で、カウンセリングの場で実際に用いられている心理テストを体験する。さらに、実際に用いられている心理療法を学ぶことで、こころの健康の問題の理解から援助まで、トータルに学習する。
到達目標	(1) こころの健康に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 こころの健康概論 第3回 ストレス 第4回 こころの病①(うつ病) 第5回 こころの病②(アタッチメントの問題) 第6回 こころの病③(トラウマ・PTSD) 第7回 心理テスト①(概要) 第8回 心理テスト②(質問紙法) 攻撃 第9回 心理療法①(心理療法に関する基本的な話) 第10回 心理療法②(ソリューション・フォーカスト・アプローチ) 第11回 心理療法③(マインドフルネス) 第12回 心理療法④(タッピングタッチ) 第13回 レジリエンス 第14回 強み 第15回 質疑応答・試験 *全ての授業回で [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って下調べをする<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する<2時間>
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、ワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。 manabaを使った質疑応答やレポート提出を行う。
履修上の注意	出席重視、私語厳禁。出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、受験資格を失います。
教科書	授業中にプリントを配布します。
参考書	授業中に適宜紹介します。

こころの健康

中井 和弥

前期 4/10(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	こころの健康に対する臨床心理学的理解
授業の概要	本講では、こころの健康に問題を持つ人を理解し、援助するための実践的な心理学を学ぶ。具体的には、まず精神障害や心理的な問題、不適応行動を学習する。その上で、カウンセリングの場で実際に用いられている心理テストを体験する。さらに、実際に用いられている心理療法を学ぶことで、こころの健康の問題の理解から援助まで、トータルに学習する。
到達目標	(1) こころの健康に関する基礎知識およびアプローチについて説明することができる【知識・理解】 (2) 自分や周囲のメンタルヘルスに対する興味をより具体的なものとして意識することができる【態度・志向性】
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 こころの健康概論 第3回 ストレス 第4回 こころの病①(うつ病) 第5回 こころの病②(アタッチメントの問題) 第6回 こころの病③(トラウマ・PTSD) 第7回 心理テスト①(概要) 第8回 心理テスト②(質問紙法) 攻撃 第9回 心理療法①(心理療法に関する基本的な話) 第10回 心理療法②(ソリューション・フォーカスト・アプローチ) 第11回 心理療法③(マインドフルネス) 第12回 心理療法④(タッピングタッチ) 第13回 レジリエンス 第14回 強み 第15回 質疑応答・試験 *全ての授業回で [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマについて、書籍やインターネットを使って下調べをする<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要個所を確認・整理する<2時間>
授業方法	講義：資料に沿って講義を行う。また、ワークなどの体験についてグループまたはペアによるディスカッションを行う。 manabaを使った質疑応答やレポート提出を行う。
履修上の注意	出席重視、私語厳禁。出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、受験資格を失います。
教科書	授業中にプリントを配布します。
参考書	授業中に適宜紹介します。

神戸研究総論

前期 4/8(火)～

単位認定者：田附 敏尚

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	歴史・生活・芸術文化などの面からの「神戸」探究
授業の概要	本学の位置する「神戸」は「モダンな街」として語られるが、150年前の「神戸開港」以前にも長い歴史があり、各時代においてさまざまなドラマを展開してきた。そのような「神戸」の様々な面を、本学の教員と神戸市立博物館の学芸員がそれぞれの専門分野から多角的に論じ、その姿を明らかにする。
到達目標	本学の所在地「神戸」について、各回で学んだ内容を理解し、多角的にその特徴や魅力を述べることができる。(知識・理解(2)) 地域社会への貢献に対する感覚を身につけることができる。(態度・志向性(2))
授業計画	<p>【総論】</p> <p>第1回 「神戸研究総論」について (田附敏尚) : 本講義の目的と概要について解説する。</p> <p>【歴史】</p> <p>第2回 考古学 (神戸市立博物館学芸員) : 六甲山系南麓の弥生時代の遺跡に着目し、高地性集落と銅鐸の謎について解説する。</p> <p>第3回 近世史 (神戸市立博物館学芸員) : 神戸市立博物館所蔵の古地図を中心に神戸の歴史を語る。</p> <p>第4回 中世史 (神戸市立博物館学芸員) : 今日に残る歴史の足跡をたどりながら、中世の神戸の様子を考察する。</p> <p>第5回 近代史 (神戸市立博物館学芸員) : 近代神戸の大きな特徴であり、神戸のイメージを形成するもととなった旧神戸外国人居留地について、その成り立ちから返還までの歴史を居留地に関わった人物や建築物等に注目して紹介する。</p> <p>【芸術文化】</p> <p>第6回 神戸の美術工芸品① (神戸市立博物館学芸員) : 神戸市立博物館のびいどろ史料庫コレクション(ガラス工芸品)を紹介し、その意義を語る。</p> <p>第7回 神戸の美術工芸品② (神戸市立博物館学芸員) : 神戸市立博物館ガラス館の美術コレクションを紹介し、その意義を語る。</p> <p>第8回 古典文学 (長谷川佳男) : 『伊勢物語』や『源氏物語』で神戸が舞台となっている話を紹介し、平安時代の神戸の姿を考察する。</p> <p>第9回 神戸の書と芸術 (丸山果織) : 書が海外でも評価されるきっかけとなった、神戸の書家と画家の交流について論じる。</p> <p>【生活】</p> <p>第10回 方言 (田附敏尚) : 神戸周辺で使われていることばの変容について、複数の言語地図等から考察する。</p> <p>第11回 食生活 (江弘毅) : 開港以来の神戸の洋食の系譜を概説する。</p> <p>第12回 ファッション (徳山孝子) : “神戸ファッション”イコール“おしゃれ”というイメージを歴史的背景から読み解く。</p> <p>第13回 創造性に着目したまちづくり (鈴木亮太) : 創造都市・創造産業とは何かを学び、神戸市による様々な施策について考察する。</p> <p>第14回 経済史 : 神戸の経済・企業について、歴史的観点から交えつつ解説する。</p>

	<p>【総括】</p> <p>第15回 総括（田附敏尚）</p> <p>:ここまで学んだ内容を復習する課題に取り組む。</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをすること。 (学習時間：<2時間>)</p> <p>授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：<2時間>)</p> <p>授業で取り上げた場所へ足を運び、実感することも望ましい。</p>
授業方法	<p>講義(オムニバス)</p> <p>本学教員担当8回(田附:第1,10,15回、長谷川(佳):第8回、丸山:第9回、江:第11回、徳山:第12回、鈴木:第13回)</p> <p>ゲスト・スピーカー担当7回(神戸市立博物館学芸員:第2-7回、その他のゲスト・スピーカー:第14回)</p> <p>【実務経験のある教員等による授業】</p> <p>神戸市立博物館の学芸員を講師として招き、博物館学芸員としての実務の経験を基にして、多角的かつ実践的な視点から「神戸」に関する研究を指導する。</p>
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、授業内（授業後の場合もある）で課題・リアクションペーパーを提出する。 2. 各回の課題・リアクションペーパーは、授業内で manaba からの提出を求めることがあるので、受講者はスマートフォン（あるいは PC・タブレット等）を持っているのであれば用意しておいてほしい。 ただし、これらを使うかは回ごとに異なる可能性があるため、その回の教員の指示に従うこと。 3. 授業回数の 3分の1 以上欠席した者については、特段の理由ある場合を除き単位を認めない。 4. 私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。 注意しても直らない場合は、退席を命じることがある（退席者は当該の回は欠席と見做す）。
教科書	使用しない。プリントを配布することがある。
参考書	授業時に随時紹介する。

社会心理学

待田 昌二

前期 4/10(木)～

木曜 14:50～16:20

授業のテーマ	個人、対人、集団に関する社会心理学の知見、理論を習得する。
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響について理解すべく、社会における人間の意識や行動に関する社会心理学の知見、理論を学習する。
到達目標	(1) 社会心理学的な考え方を理解し、社会における人間の意識や行動に関する社会心理学の基礎的知識を持っている。【知識・理解】 (2) 自身の心と行動について社会心理学的な観点から考えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1 回 社会的動物としての人間 第 2 回 観察学習と模倣（他者から学ぶ能力） 第 3 回 集団意識と排斥：集団への所属 第 4 回 集団意識と排斥：社会的影響 第 5 回 集団意識と排斥：社会的比較と自己確証動機 第 6 回 集団意識と排斥：アイデンティティ 第 7 回 集団意識と排斥：ステレオタイプと偏見 第 8 回 集団意識と排斥：怒りと攻撃 第 9 回 他者の必要性和協力：自己開示、自己呈示 第 10 回 他者の必要性和協力：好意の形成と返報性 第 11 回 他者の必要性和協力：援助（見知らぬ他者への援助） 第 12 回 他者の必要性和協力：社会的ジレンマと協力 第 13 回 協力の促進と達成度確認試験 第 14 回 情報社会の心理学 第 15 回 消費社会の心理学 期末試験 *第 2 回から第 15 回までの授業回で [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間1時間） 授業後学習：松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間3時間）
授業方法	主に講義形式だが、manabaからの課題提出などを授業中に行う。<BYOD 対象科目>
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭 manaba で示す授業前学習、授業後学習を行うこと。
教科書	なし。適宜、松蔭 manaba からプリントを配信する。
参考書	松蔭 manaba において紹介する。

フランス語ⅡA

打田 素之

前期 4/9(水)～

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	フランス語文法の完成
授業の概要	1年次の文法の教科書を引き続き使用して、後半部分の前半を終える。
到達目標	【知識・理解】フランス語の関係代名詞、未来時制、過去時制が理解できる。 フランス語と日本語の文法的な違いが説明できる。 【汎用的技能】フランス語で書かれた文章を理解できる。
授業計画	第1回 関係代名詞 第2回 疑問代名詞 第3回 人称代名詞（直接目的） 第4回 人称代名詞（間接目的） 第5回 受動態（現在） 第6回 受動態（過去） 第7回 指示代名詞 第8回 強調構文 第9回 代名動詞（現在） 第10回 代名動詞（過去） 第11回 非人称構文 第12回 単純未来 第13回 前未来 第14回 中性代名詞 第15回 まとめとテスト *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業範囲の教科書を読み、新出単語を調べる。（2時間） 授業で配布されたプリントの問題や教科書の練習問題を解き、訳文を付ける。（2時間）
授業方法	講義：授業は以下の手順で進める。 【文法事項の解説】→【ドリル練習】→【問題の解答と解説】
履修上の注意	毎回辞書を持ってくること。 1/3以上の欠席は失格とする。
教科書	斎藤昌三『ル・フランセ』、白水社。ISBN978-4-560-06052-0 C3085
参考書	

フランス語ⅡB

打田 素之

後期 10/1(水)～

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	フランス語文法の完成
授業の概要	1年次の文法の教科書を引き続き使用して、後半部分の後半を終える。
到達目標	【知識・理解】フランス語の条件法、接続法が理解できる。 フランス語と日本語の文法的な違いが説明できる。 【汎用的技能】フランス語で書かれた文章を理解できる。
授業計画	第1回 前置詞を取る関係代名詞：lequel 他 第2回 前置詞を取る関係代名詞：qui, quoi 第3回 半過去（1）：活用 第4回 半過去（2）：用法 第5回 大過去：形と用法 第6回 条件法現在（1）：活用 第7回 条件法現在（2）：用法 第8回 条件法過去：形と用法 第9回 条件法と仮定法 第10回 現在分詞 第11回 ジェロンディフ 第12回 話法 第13回 接続法 第14回 〈法〉について 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業範囲の教科書を読み、新出単語を調べる。(2時間) 授業で配布されたプリントの問題や教科書の練習問題を解き、訳文を付ける。(2時間)
授業方法	講義 文法事項の解説→ドリル練習→問題の解答と解説。
履修上の注意	毎回辞書を持ってくること。 1/3以上の欠席は失格とする。
教科書	『ル・フランセ』新版、斉藤昌三著、白水社、ISBN978-4-560-06052-0
参考書	

ビジネス中国語A

前期 4/8(火)~

古川 典代

火曜 10:40~12:10

授業のテーマ	初級ビジネス中国語
授業の概要	経済面では切っても切れない関係にある隣国中国、ほとんどの業界で中国とは何らかの繋がりを持っている。そのビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なのが中国語。日常会話の中国語から、一歩進んだビジネスで使う中国語を理解し、活用できるように学習する。
到達目標	ビジネスで使う中国語を習得できる。【汎用的技能】 就活に役立たせることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 第一課 オフィスを訪ねる 第2回 [疑問詞+ma]、動詞の重ね型 第3回 第二課 レストランに食事に行く 第4回 [形容詞+了]、選択疑問文 第5回 第三課 銀行にて 第6回 助動詞[想]の用法、結果補語[好] 第7回 第四課 商談をする 第8回 結果補語[到]、程度補語 第9回 第五課 宴会のセッティングをする 第10回 数量述語文、[把]構文 第11回 第六課 有給休暇を取る 第12回 助動詞[可以]の用法、[怪~了] 第13回 第七課 フライトを待つ 第14回 既習事項まとめ・期末試験(筆記・会話) 第15回 総括 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：ピンインで書かれている中国語単語および新出単語を調べておく。付属CDでテキスト本文を予習する。(学習時間2時間) 授業後学習：参考表現を覚える。付属CDを聞きながらシャドーイングする。(学習時2時間)
授業方法	演習：2回で1課進むペースで行う。ピンインを中国語に直して答え合わせをし、本文を朗読する。その後日本語に訳す。ペアになって会話練習をし、発表会をする。ここまでが1回目。 2回目は、文法事項を確認し、練習問題を行う。その後リスニングをして穴埋めをする。日本語訳をしながら内容を確認する。参考表現を音読し、5分間で覚える。小テストで参考表現を筆記する。このサイクルで各課の学習を繰り返していく。
履修上の注意	中国語ⅠA B C D、中国語ⅡA Bを履修済みのこと(同時期履修可)。三分の二以上の出席が必要。
教科書	『やさしいビジネス中国語』三瀧正道・金子伸一 朝日出版社 ISBN978-4-255-45136-7
参考書	『ビジネス中国語単語ベーシック 1000』古川典代監訳 三省堂 ISBN978-4-385-36547-3

ビジネス中国語B

後期 9/30(火)～

古川 典代

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	初級ビジネス中国語
授業の概要	経済面では切っても切れない関係にある隣国中国、ほとんどの業界で中国とは何らかの繋がりを持っている。そのビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なのが中国語。日常会話の中国語から、一歩進んだビジネスで使う中国語を理解し、活用できるように学習する。さらに余力があれば、中国語検定受験対策も行う。
到達目標	ビジネスで使う中国語を習得できる。【汎用的技能】 就活や社会に出てからも活用したり応用できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 第八課 アフターサービス 第2回 baの用法、V為～ 第3回 第九課 コンテナ輸送 第4回 [一～就…]の用法、[既～又…]の用法 第5回 第十課 待遇 第6回 [只有～才能…]の用法、[作為～]の用法 第7回 第十一課 病院にて 第8回 [先～然后…]の構文、[不是～而是…]の構文 第9回 第十二課 国際入札 第10回 「～だそうだ」の構文、「有」を伴う二音節動詞 第11回 第十三課 財務 第12回 様態補語と可能補語 第13回 ビジネス中国語会話「参考表現」まとめ 第14回 既習事項まとめ・期末試験（筆記・会話） 第15回 総括 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：ピンインで書かれている中国語単語および新出単語を調べておく。付属CDでテキスト本文をを予習する。(学習時間2時間) 授業後学習：参考表現を覚える。付属CDを聞きながらシャドーイングする。(学習時間2時間)
授業方法	演習：2回で1課進むペースで行う。ピンインを中国語に直して答え合わせをし、本文を朗読する。その後日本語に訳す。ペアになって会話練習をし、発表会をする。ここまでの1回目。 2回目は、文法事項を確認し、練習問題を行う。その後リスニングをして穴埋めをする。日本語訳をしながら内容を確認する。参考表現を音読し、5分間で覚える。小テストで参考表現を筆記する。このサイクルで各課の学習を繰り返していく。
履修上の注意	中国語ⅠA B C D、中国語ⅡA Bを履修済みのこと(同時期履修可)。三分の二以上の出席が必要。
教科書	『やさしいビジネス中国語』三瀧正道・金子伸一 朝日出版社 ISBN978-4-255-45136-7
参考書	『ビジネス中国語単語ベーシック1000』古川典代監訳 三省堂 ISBN978-4-385-36547-3

韓国語コミュニケーション A

金 智英

前期 4/10(木)～

木曜 13:10～14:40

授業のテーマ	韓国語の表現とコミュニケーション能力のレベルアップ
授業の概要	韓国語中級レベルに該当する人を対象とする。学校生活を中心とした様々なテーマの会話文を通して、語彙力・表現力の向上を目指す。また、学習表現の応用会話や自由会話を通して、意見や感想を自然な韓国語で伝えて理解する能力を身につけていく。数回、授業中にペアまたはグループでスキットを作り、発表する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を自然な韓国語で表すことができる【凡庸的技能】 ・特定のテーマについて韓国語で会話を持続できる【知識・理解】【凡庸的技能】
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーションと自己紹介</p> <p>第 2 回 目上の人や初対面の人に対する表現</p> <p>第 3 回 聞き取り・会話練習①：尊敬語と謙譲語</p> <p>第 4 回 理由を表す表現</p> <p>第 5 回 聴解と会話練習②：理由の表現</p> <p>第 6 回 文をつなげる表現</p> <p>第 7 回 聴解と会話練習③：相手の意図を確認する</p> <p>第 8 回 発表：ペアでスキット発表</p> <p>第 9 回 許可・禁止の表現</p> <p>第 10 回 聴解と会話練習④：動作や状態の持続を表す</p> <p>第 11 回 言い切らない表現</p> <p>第 12 回 聴解と会話練習⑤：意志を表す</p> <p>第 13 回 推測の表現</p> <p>第 14 回 聴解と会話練習⑥：未来のことについて話す</p> <p>第 15 回 授業内容のまとめと期末試験</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業前準備学習<1時間> ・各回、予定されている教科書の会話本文を日本語に訳し、読み上げ練習を行う。 ・知らない単語を単語帳に整理しておく。 ●授業後学習<1時間> ・授業で取り上げられた新出単語を各自で整理し、暗記する。 ・ペアと行った自由会話の内容と単語・使用表現等をノートに整理する。
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ●講義 ・毎回、学習した表現を用いてペアやグループで会話練習を行う。 ・数回、単語を中心とした小テストを行う(日程は授業で案内)。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が 10 回に満たない場合は単位取得不可となる。 ・韓国語 II AB を履修していること(同時受講可)。 ・韓国語 II CD を履修していること(同時受講可)。
教科書	金仁姫・金智英『レベルアップ韓国語表現』朝日出版社 ISBN 978-4-255-55705-2
参考書	授業内で紹介

韓国語コミュニケーション B

後期 10/2(木)～

金 智英

木曜 13:10～14:40

授業のテーマ	韓国語の表現とコミュニケーション能力のレベルアップ
授業の概要	韓国語中級レベルに該当する人を対象とする。学校生活を中心とした様々なテーマの会話文を通して、語彙力・表現力の向上を目指す。また、学習表現の応用会話や自由会話を通して、意見や感想を自然な韓国語で伝えて理解する能力を身につけていく。数回、授業中にペアまたはグループでスキットを作り、発表する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を自然な韓国語で表すことができる【凡庸的技能】 ・韓国語で特定のテーマに関する会話を持続できる【知識・理解】【凡庸的技能】
授業計画	<p>第 1 回 韓国語コミュニケーション A の復習</p> <p>第 2 回 過去の経験に関する表現</p> <p>第 3 回 聞き取り・会話練習①：出来事の順番</p> <p>第 4 回 希望を表す表現</p> <p>第 5 回 聴解と会話練習②：好みを表す</p> <p>第 6 回 可能・不可能の表現</p> <p>第 7 回 聴解と会話練習③：推測を加えて話す</p> <p>第 8 回 発表：ペアでスキット発表</p> <p>第 9 回 過去の出来事を表す表現</p> <p>第 10 回 聴解と会話練習④：変化を表す</p> <p>第 11 回 聞いたことを伝える</p> <p>第 12 回 聴解と会話練習⑤：禁止の表現</p> <p>第 13 回 パンマルで話す</p> <p>第 14 回 聴解と会話練習⑥：後悔を表す表現</p> <p>第 15 回 授業内容のまとめと期末試験</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>●授業前準備学習< 1 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回、予定されている教科書の会話本文を日本語に訳し、読み上げ練習を行う。 ・知らない単語を単語帳に整理しておく。 <p>●授業後学習< 1 時間 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げられた新出単語を各自で整理し、暗記する。 ・ペアと行った自由会話の内容と単語・使用表現等をノートに整理する。
授業方法	<p>●講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回、学習した表現を用いてペアやグループで会話練習を行う。 ・数回、単語を中心とした小テストを行う（日程は授業で案内）。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が 10 回に満たない場合は単位取得不可となる。 ・韓国語 II AB を履修していること（同時受講可）。 ・韓国語 II CD を履修していること（同時受講可）。
教科書	金仁姫・金智英『レベルアップ韓国語表現』朝日出版社 ISBN 978-4-255-55705-2
参考書	授業内で紹介

Essential Intercultural Studies A

前期 4/9(水)～

F. Shiobara

水曜 14:50～16:20

授業のテーマ	To develop intercultural understanding and intercultural communication. (異文化理解および異文化コミュニケーションについて知識・理解を深める)
授業の概要	<p>(英文) This course will aim to introduce students to cultures and people around the world. In this way it is hoped that students will have some knowledge of the background of foreigners they may meet in Japan to encourage interaction and understanding. The course will first define what is intercultural communication and based on this definition will illustrate the current state of intercultural communication and its challenges in the Japanese society. The course will incorporate four skills of English. Short videos will be used to introduce different countries and cultures as well as creating interest. There will be short reading passages created by the teacher adding detail to the video activities. Students will interact with foreigners on campus or outside from diverse backgrounds through interviews and discussions in order to gain first-hand intercultural experience as well as to practice English speaking and listening skills. This information will be analyzed and developed through small group discussions allowing students to use critical thinking skills and relate the countries to Japan and Japanese culture. Finally students will create posters for poster presentations about various countries. This will give students the opportunity to research independently and share their findings.</p> <p>(和訳) この科目の目的は、まず多様化する日本社会における異文化コミュニケーションの意義および現状を明らかにし、その問題点も認識する。さらに多様性をより深く理解するためにそれぞれの文化的背景を学ぶことにより、国内外でのさまざまな場面における異文化交流に対する積極的な姿勢を育成する。さらに本講義では英語の4技能の訓練を取り入れ、その能力を向上させるために動画を観た後、その動画についての内容をまとめ、そこで得た知識をグループワークを通して体験的に分析する。これに加え、学内・学外において異なる文化背景をもった人々へのインタビューや意見交換を通し異文化交流体験の機会をもつとともに実践的な英語力を養う。これらの活動を通じた体験や意見を発展させ、観察力や思考力を駆使して学生自身の国の文化との比較などを行うことにより、最終的に日本を基軸にしながらさまざまな視点からの異文化理解をテーマとするポスタープレゼンテーションとして発表する。さらに、このような活動を経て、英語の教科指導における異文化理解教育の方法論や指導法を学ぶことを目指す。</p>
到達目標	<p>(1) Students will develop understanding of the current state and challenges of intercultural communication (異文化コミュニケーションについて現状把握と課題を理解する)【知識・理解】</p> <p>(2) Students will develop understanding of culture, history and society. (世界各地の文化や歴史、社会などについての理解を深める)【知識・理解】</p> <p>(3) Students will develop objective viewpoints of diverse cultures, which will help them to understand their own culture. (多様な文化を理解することを通して自らの文化をさらに深く理解する)【汎用的技能】</p>

授業計画	<p>第 1 回 Intercultural communication in a diverse society: Definition, current state and challenges 多様化する社会での異文化コミュニケーションとは：その定義と現状認識および問題点</p> <p>第 2 回 A brief history of English and Indo-European languages 英語の歴史と欧米の言語の概観</p> <p>第 3 回 Australia</p> <p>第 4 回 Chapter 1 India</p> <p>第 5 回 Chapter 2 Philippines</p> <p>第 6 回 Chapter 3 Thailand</p> <p>第 7 回 Chapter 4 Vietnam</p> <p>第 8 回 Chapter 5 Korea</p> <p>第 9 回 Chapter 6 France</p> <p>第 10 回 Chapter 7 Italy</p> <p>第 11 回 Review & Country Research ふりかえりおよび国別調査 [BYOD PC required]</p> <p>第 12 回 Final test まとめと定期試験 [BYOD PC required]</p> <p>第 13 回 Poster presentation preparation ポスタープレゼンテーション練習 [BYOD PC required]</p> <p>第 14 回 Poster presentation (ポスタープレゼンテーション)</p> <p>第 15 回 Review and Evaluation 総括および評価</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>Before the course, students should make themselves familiar with world geography to understand refer ences to countries in class activities.</p> <p>Students should spend approximately 4 hours studying outside class.</p> <p>Pre class: Preparing for weekly quiz (2 hours)</p> <p>Post class: Writing report (2 hours)</p>
授業方法	<p>講義 Lecture This class will be taught only in English. Groupwork and presentations.</p>
履修上の注意	<p>70 % attendance is the minimum necessary. Active participation is required.</p>
教科書	<p>World Adventures Scott Berlin; Megumi Kobayashi Kinseido ISBN 9784764741331</p>
参考書	<p>なし</p>

Essential Intercultural Studies B

後期 10/1(水)～

F. Shiobara

水曜 14:50～16:20

授業のテーマ	To develop intercultural understanding through exposure to different varieties of English. (世界各地の異なる英語やその地域に関する知識を得ることにより異文化理解を深める)
授業の概要	<p>(This course will aim to introduce students to cultures and people around the world, but with a special emphasis on children and education systems around the world. By focusing on these countries, students will be exposed to the idea of “World Englishes”; deep understanding of this notion is vital for young people in the 21st century. Students will have adequate knowledge of the background of countries they may visit for study abroad to encourage interaction and understanding. The course will incorporate four skills of English. Short videos will be used to introduce different countries and cultures as well as creating interest. There will be short reading passages created by the teacher adding detail to the video activities. Students will also exchange opinions with foreigners from diverse backgrounds in order to gain first-hand intercultural and language experience as well as practice English speaking and listening skills. This information will then be analyzed and developed through small group discussions allowing students to use critical thinking skills and relate the countries to Japan and Japanese culture. Finally students will create slides for final presentations about various cultures. This will give students the opportunity to research independently and share their findings</p> <p>(和訳) この科目の目的は、世界の人々とその文化に焦点を当て、異文化理解を深めることであり、特に世界のさまざまな地域における子どもの生活と教育制度に注目する。講義の中ではさまざまな文化を紹介するが、主として英語圏の国々の英語および文化を中心に取り上げる。World Englishesという概念が示すように、世界各地で異なる「英語」が使用されている。これについて理解を深めることは21世紀に生きる若者にとっては必須といえる。これらの言語や文化背景を紹介することにより、学生が留学する国について学び、現地で体験する異文化交流への積極的姿勢の育成を図る。さらに本講義では英語の4技能の訓練を取り入れ、その能力を向上させるために動画を観た後、その動画についての内容をまとめ、そこで得た知識をグループワークの形で分析する。また、英語を使う人たちと交流することにより、英語の多様性を直接経験することで異文化コミュニケーションについて理解をさらに深めるとともに実践的な英語力を養う。これらの活動により得られた意見を発展させ、観察力や思考力を駆使して学生自身の国の文化との比較などを行うことにより、最終的にさまざまな異文化理解の視点に基づくパワーポイントによるプレゼンテーションとして発表する。さらに、このような活動を経て、英語の教科指導における異文化理解教育の方法論や指導法を学ぶことを目指す。</p>
到達目標	<p>(1) Students will develop understanding of the current state and challenges of intercultural communication (異文化コミュニケーションについて現状把握と課題を理解する)【知識・理解】</p> <p>(2) Students will develop understanding of cultures from around the world. (世界中の文化についての理解を深める)【知識・理解】</p> <p>(3) Students will understand the idea of “World Englishes” and appreciate different types of English used globally (英語の多様化を理解しその地域、歴史などの理解を深める)【汎用的技能】</p>

授業計画	<p>第 1 回 Introduction: World Englishes オリエンテーション: 多様化する英語</p> <p>第 2 回 Chapter 8 Denmark</p> <p>第 3 回 Chapter 9 Portugal</p> <p>第 4 回 Chapter 10 Turkey</p> <p>第 5 回 Chapter 11 Egypt</p> <p>第 6 回 Chapter 12 South Africa</p> <p>第 7 回 Chapter 13 Brazil</p> <p>第 8 回 Chapter 14 Peru</p> <p>第 9 回 Chapter 15 Guatemala</p> <p>第 10 回 Final Test まとめと定期試験「BYOD PC required」</p> <p>第 11 回 Country Research「BYOD PC required」</p> <p>第 12 回 Christmas around the world</p> <p>第 13 回 Preparation of PowerPoint slides パワーポイントスライド作成「PC required」</p> <p>第 14 回 PowerPoint presentations パワーポイント発表</p> <p>第 15 回 Review and Evaluation 総括および評価</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>Before the course, students should make themselves familiar with world geography in order to understand and references to countries in class activities.</p> <p>Students should spend approximately 4 hours studying outside class.</p> <p>Pre lesson Review for weekly quiz (2 hours)</p> <p>Post lesson Country report (2 hours)</p>
授業方法	<p>講義 Lecture This class will be taught only in English. Groupwork and Presentations.</p>
履修上の注意	<p>70 % attendance is the minimum necessary. Active participation is required.</p>
教科書	<p>World Adventures Scott Berlin; Megumi Kobayashi Kinseido ISBN 9784764741331</p>
参考書	<p>なし</p>

英語コミュニケーション概論A

前期 4/8(火)～

川中 紀子

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。 映画や音楽を教材として英語力を伸ばすこと。
授業の概要	授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための導入として、英語圏のポップソングを素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、映画を視聴しながら実際の会話に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語の4技能の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を学ぶ。
到達目標	・英語の音声変化の法則を理解できる。(汎用的技能) ・リスニング、読解などの演習を通じて総合的な英語力(CEFR B2 レベル)を習得できる。(知識・理解)
授業計画	第1回 【PC必携】英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみ 第2回 【PC必携】映画視聴と英語・日本語字幕の活用について 第3回 【PC必携】TOEIC形式の問題演習① 第4回 音の同化：映画の会話演習 第5回 音の脱落：映画の会話演習 第6回 【PC必携】TOEIC形式の問題演習②・アメリカ英語の特徴 (nt 縮約) 第7回 短縮形の音 (can' t, won' t) の聴き取り 第8回 機能語の弱形と強形：映画の会話演習 第9回 音の連結・音声変化の複合：映画の会話演習 第10回 【PC必携】ディスカッションと復習 第11回 【PC必携】TOEIC形式の問題演習③ 第12回 【PC必携】受講生が選んだ映画の発表① 第13回 【PC必携】受講生が選んだ映画の発表② 第14回 【PC必携】TOEIC形式の問題演習④ 第15回 質疑応答・期末試験 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。(学習時間：2時間)
授業方法	<BOYD対象科目> 講義：テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを随時行う。
履修上の注意	英語の音楽や映画が好きな人、また、音楽や映画を活用して英語力を伸ばしたい人、英語教育に役立てたい人の受講を歓迎する。自然な速度の英語を教材とするので、英語力にある程度の自信がある学生の受講が望ましい。
教科書	角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011年 978-4791930869
参考書	随時紹介する。

英語コミュニケーション概論B

後期 9/30(火)～

川中 紀子

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。 映画や音楽を教材として英語力を伸ばすこと。
授業の概要	授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための導入として、英語圏のポップソングを素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、映画を視聴しながら実際の会話に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語の4技能の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を学ぶ。
到達目標	・英語の音声変化の法則に習熟する。(汎用的技能) ・リスニング・読解などの演習を通じて総合的な英語力(CEFR B2 レベル)を習得できる。(知識・理解)
授業計画	第1回 【PC 必携】英語の音声変化の法則の復習 第2回 映画の視聴と字幕の利用・アメリカ英語の特徴② 第3回 【PC 必携】TOEIC 形式の問題演習⑤ 第4回 助動詞の短縮形の音①、映画の会話演習 第5回 音楽・映画を活用した英語学習法・教育法 第6回 【PC 必携】TOEIC 形式の問題演習⑥、助動詞の短縮形の音② 第7回 前置詞や接続詞の弱形の発音、映画の会話演習 第8回 【PC 必携】ディスカッションと復習 第9回 音の脱落②(破裂音)、映画の会話演習 第10回 ing 形の発音、映画の会話演習 第11回 【PC 必携】TOEIC 形式の問題演習⑦ 第12回 受講生が選んだ映画の発表③ 第13回 受講生が選んだ映画の発表④ 第14回 【PC 必携】まとめと復習 第15回 質疑応答・期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。(学習時間：2時間)
授業方法	<BOYD 対象科目> 講義：テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを随時行う。
履修上の注意	英語の音楽や映画が好きな人、また、音楽や映画を活用して英語力を伸ばしたい人、英語教育に役立てたい人の受講を歓迎する。ある程度、英語力に自信のある学生の受講が望ましい。
教科書	角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011年 978-4791930869 「英語コミュニケーション概論A」の履修者は購入済みです。
参考書	随時紹介する。

コンピューティングA

P. Spaelti

前期 4/10(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	インターネットがわかる。ウェブデザインの基本。
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってインターネット上の情報にアクセスする方法を学びます。このために、まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム (OS) そしてコンピュータ・ネットワークについて理解を深めることにします。それからCGなどのデジタルメディアを使ったウェブページの作成法、スタイルシートを使った情報の効果的な表示法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れます。授業では基本的概念の理解と実践の両方に重きを置く予定です。
到達目標	テキストエディタ、グラフィックス・音声・動画ファイルなどを扱うさまざまなソフトウェアに使い慣れる。データのマークアップ、HTML、CSS、そして初歩のウェブプログラミングをマスターする。【汎用的技能】
授業計画	第1回 コンピュータの基礎 第2回 ファイルエディターとファイルの種類 第3回 インターネットはなんですか？ 第4回 ブラウザーの種類 第5回 マークアップ言語：HTML 第6回 ウェブサイトの計画 第7回 スタイルシート CSS 第8回 イメージの種類 第9回 画像処理ソフトでイメージの変種 第10回 ユーザインターフェース 第11回 スクリプト 第12回 マルチメディア 第13回 プロジェクト作成・計画 第14回 プロジェクト作成・実現 第15回 プロジェクト作成・完成 ※試験は希望者のみ受験。
授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。学習時間「180分以上」。
授業方法	演習。コンピュータを触りながら、概念を実際に自分で試してみる。
履修上の注意	積極的な授業参加
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	

コンピューティングB

P. Spaelti

後期 10/2(木)~

木曜 10:40~12:10

授業のテーマ	コンピュータを使ったデータ分析。
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってデータを収集し、組み立て、分析する方法を学びます。まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム (OS)、ハードウェアとソフトウェアの違いなどについて理解を深めます。それからデータ入力、いろいろなフォーマットでの保存法や暗号化法、表計算ソフトやデータベースを使ったデータ分析法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れることにします。
到達目標	データ入力と分析のためにさまざまなツールをマスターすること。データベース言語 (SQL) をマスターすること。【汎用的技能】
授業計画	第1回 データベースはなんですか？ 第2回 表計算ソフトを使う 第3回 データの種類 第4回 グラフを作る 第5回 データ分析法 第6回 データ構造 第7回 データベースソフトを使う 第8回 データベース言語：SQL 第9回 データベースの作成 第10回 データベースからデータを取り出す 第11回 セキュリティとプライバシーの問題 第12回 ウェブの接続 第13回 プロジェクト作成・計画 第14回 プロジェクト作成・実現 第15回 プロジェクト作成・完成 ※試験は希望者のみ受験。
授業外おける学習 (準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。学習時間「180分以上」
授業方法	演習。コンピュータを触りながら、概念を実際に自分で試してみる。
履修上の注意	積極的な授業参加
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	

アジア文化入門A

金 智英

前期 4/8(火)～

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	隣の国、韓国を知る
授業の概要	日本と同じ東アジア文化圏に属する韓国の歴史、文化、社会に関する基礎知識を学ぶ。そのうえで、現代韓国の社会と文化について、いくつかの項目を中心に学習する。また、日韓の交流の歴史、韓流や日流などを取り上げながら、異文化と自文化の捉え方について考え、理解を深めていく。
到達目標	●韓国の歴史、文化、社会に関する基礎知識を知る【知識・理解】 ●日韓の社会や文化の共通点や相違点を理解する【知識・理解】 ●自身が属する文化と他の文化を客観的に捉えることができる【態度・志向性】
授業計画	第1回 東アジア文化圏 第2回 朝鮮半島の歴史と文化概観 第3回 朝鮮半島の有名な人物とその時代背景 第4回 韓国語の文字「ハングル」について 第5回 影響し合う日韓の言葉 第6回 現代韓国の教育事情と学生生活 第7回 韓国の食文化ー伝統から現代までー 第8回 アジア発祥の宗教と信仰 第9回 韓国文学から見る韓国社会 第10回 韓国の映画・ドラマから見る韓国社会 第11回 韓国の美術作品と画家紹介 第12回 現代韓国社会と女性 第13回 韓国における日本文化の禁止と開放 第14回 韓流と日流 第15回 授業内容のまとめ ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	●授業前準備学習<2時間> ・日ごろからニュースなどを通して韓国に関連する情報を積極的に収集しておく ・前もって授業内容を確認し、関連する用語、事柄、記事などを調べておく ●授業後学習<2時間> ・授業内容を各自の授業ノートにまとめる ・学習内容の中で興味を持った事についてさらに詳しく調べるなどして、最後のレポートに備える
授業方法	●講義 ・毎回、講義内容について意見交換を行うので、積極的に参加してほしい ・毎回、コメントシートに感想や質問を提出してもらい、次の時間に共有・回答する
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は単位取得不可となる。
教科書	プリント配布
参考書	舘野 哲編『韓国の暮らしと文化を知るための70章』明石書店 チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』筑摩書房 司馬 遼太郎『一街道をゆく2ー韓のくに紀行』朝日文庫

アジア文化入門B

古川 典代

後期 9/30(火)～

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	隣国中国の文化を学ぶ
授業の概要	<p>近くて遠い国、隣国中国の文化を学ぶ。</p> <p>また、日本と中国を文化や習慣面から対照することにより、両者の差異と共通点について考える。</p> <p>日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本および日本語を客観的に捉える視点を育成する。</p>
到達目標	<p>中国の特性を認識し、日中間の類似性と相違性を把握できる。【知識・理解】</p> <p>日本と中国との異同の中から歴史的関係性に興味を持つことができる。【態度・志向性】</p>
授業計画	<p>第1回 中国・中国語概況</p> <p>第2回 日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響</p> <p>第3回 日中同形異義語</p> <p>第4回 映画で見る近代中国1（唐山大地震前半）</p> <p>第5回 映画で見る近代中国2（唐山大地震後半）</p> <p>第6回 日中カバーソング事情</p> <p>第7回 日本語と中国語の文法の違い</p> <p>第8回 アルファベットや数字によるコミュニケーション</p> <p>第9回 日本と中国の文化・風習の違い</p> <p>第10回 中国の少数民族</p> <p>第11回 中国茶の成り立ちと種類（テイスティング）</p> <p>第12回 中華料理の構成と名称</p> <p>第13回 日中通過儀礼の違い</p> <p>第14回 日中祝祭日比較</p> <p>第15回 総括</p> <p>※試験は希望者のみ受験。</p>
授業外おける学習 (準備学習の内容)	<p>授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアナテナを張り巡らせておくこと。各回のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。（学習時間2時間）</p> <p>授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。日頃から問題意識を持ち、情報収集する。（学習時2時間）</p>
授業方法	<p>演習：毎回のテーマに合わせ、可能な限り日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。コメントシートに書かれた質問は、次週の冒頭で回答する。最後にこの授業で習得したことを中心に、興味を持ったテーマに関するレポートを800字以上1000字程度で作成して提出する。</p>
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。
教科書	指定教科書は無し。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する

中国語通訳翻訳演習

前期 4/11(金)～

古川 典代

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	中国語通訳・翻訳
授業の概要	通訳に必要な資質、道具、手法の理解。通訳トレーニングメソッドの理解と習得。簡単な通訳や翻訳の演習でスキルを身に付けるべく、理論学修とともに通訳、翻訳演習を繰り返し行う。中国語での自己紹介を流暢にできるようになるまで特訓し、就活等に活用できるようにする。
到達目標	通訳トレーニングメソッドがわかる。【知識・理解】 簡単な通訳や翻訳ができる。【汎用的技能】 日本の通訳事情を理解できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 中国語通訳についての概要、必要ツール紹介 第2回 通訳トレーニングメソッドの紹介、演習/クイックレスポンス① 通訳時によく出てくる成語・常用表現① 第3回 クイックレスポンス、ラギング/クイックレスポンス② 通訳時によく出てくる成語・常用表現② 第4回 シャドーイング/クイックレスポンス③ 通訳時によく出てくる成語・常用表現③ 第5回 ノートテイキング/クイックレスポンス④ 通訳時によく出てくる成語・常用表現④ 第6回 サマリー/クイックレスポンス⑤ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑤ 第7回 小テスト/クイックレスポンス⑥ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑥⑥ 第8回 逐次通訳演習①日常会話/クイックレスポンス⑦ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑦ 第9回 逐次通訳演習②環境問題/クイックレスポンス⑧ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑧ 第10回 翻訳演習①中国の文化/クイックレスポンス⑨ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑨ 第11回 翻訳演習②式辞挨拶/クイックレスポンス⑩ 通訳時によく出てくる成語・常用表現⑩ 第12回 字幕翻訳について/クイックレスポンス⑪ 通訳時によく出てくる成語・常用表現小テスト 第13回 同時通訳・ウィスパリングについて/クイックレスポンス⑫ 第14回 既習事項まとめ・クイックレスポンス小テスト 第15回 中国語での自己紹介発表会 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：クイックレスポンスに使用する単語20個と通訳時によく出てくる成語・常用語10個を調べておく。通訳トレーニングメソッドを確認しておく。(学習時間2時間) 授業後学習：クイックレスポンスおよび通訳時によく出てくる成語・常用語を復習する。授業で行った演習を復習する。声に出して音読し、日本語訳も確認する。(学習時間2時間)
授業方法	演習：毎回冒頭で「クイックレスポンス用単語」20題を答え合わせし、5分で暗記する。そのうえで口頭でクイックレスポンスの小テストを行う。続いて、「通訳時によく出てくる成語・常用表現」の答え合わせをし、演習する。その後、通訳トレーニングメソッドを活用した演習を行う。主として中→日方向での通訳のパフォーマンスを繰り返し訓練する。ノートテイキング、サマリ

	一などの訓練も折々に取り入れて行う。最終回には中国語での自己紹介を発表する。
履修上の注意	真摯な態度で取り組んでください。三分の二以上の出席が必要。
教科書	毎回プリントを用意します。
参考書	『中国語シャドーイング入門』DHC 古川典代著 ISBN4-88724-391-X 『たくさんキクヨム中国語』コスモピア 古川典代他著

日本書道史

丸山 果織

後期 10/1(水)～

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえて当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。
到達目標	①日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。【知識・理解】 ②日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 ガイダンス、日本書道史について 第2回 漢字の伝来以前と漢字の受容 第3回 奈良時代①（中国の書） 第4回 奈良時代②（天平文化・万葉仮名） 第5回 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺） 第6回 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺） 第7回 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成） 第8回 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙） 第9回 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経） 第10回 室町時代（墨跡） 第11回 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺） 第12回 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書） 第13回 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論） 第14回 昭和初期・戦後現代（ゲストスピーカーによる講義） 第15回 今日の書の展望 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前学習：次時の内容について教科書を読んで予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：扱った内容を復習すること。また、授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行うこと。（学習時間：2時間） 紹介した展覧会で鑑賞すること。
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション
履修上の注意	随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。
教科書	『決定版 日本書道史』名見耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円＋税金 適宜プリントを配布する。
参考書	『書学挙要－書の歴史と文化－』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7

文法の基礎知識

後期 9/30(火)～

田附 敏尚

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	日本語の文法の基礎的な知識を学ぶ
授業の概要	ことばの規則性には発音、単語の作り方、文法などのような「ことばそのもの」に関わる規則性がある。 同時に、敬語や、書きことばと話しことばの区別、男女差など「ことばの適切な使い分け」にも規則性がある。 この授業では特に「ことばそのもの」に関わる規則に支えられた「日本語のしくみ」が見えてくるさまざまな現象を取り上げることによって、日本語という言語を考える。
到達目標	(1)母語である「日本語」の文法に関する基礎知識を身につけ、文法についての間違いの指摘や説明ができる。【知識・理解】 (2)受講内容について批判的に考え、その考えを文章にして記述することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 オリエンテーション [PC 必携] 第2回 日本語の品詞／活用 [PC 必携] 第3回 格助詞 [PC 必携] 第4回 使役 [PC 必携] 第5回 受身 [PC 必携] 第6回 テンス [PC 必携] 第7回 アスペクト [PC 必携] 第8回 モダリティ [PC 必携] 第9回 条件 [PC 必携] 第10回 名詞修飾／連体修飾と連用修飾 [PC 必携] 第11回 「は」と「が」 [PC 必携] 第12回 とりたて助詞 [PC 必携] 第13回 「のだ」 [PC 必携] 第14回 授受表現／省略 [PC 必携] ト 第15回 まとめ・テスト [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べる。授業内で講義内容に関する小テストを毎回行うので、その準備をする。(学習時間：2時間) 授業後：授業後に内容に関する復習テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理し、復習テストに臨む(学習時間：2時間)
授業方法	<BYOD対象科目> 講義：基本的には講義形式だが、受講者にgoogleフォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、例文作成などの課題を課すこともある。 毎回松蔭 manaba を使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある(退席者は当該の回は欠席と見做す)。 ・基本的に3分の2以上の出席がなければ期末試験の受験は認められない。
教科書	庵功雄他(2020)『やさしい日本語のしくみ-日本語学の基礎-改訂版』くろしお(1100円) ISBN : 978-4-87424-830-0 C0080
参考書	授業中に紹介する。

演劇とパフォーマンスの歴史

栞井 智英

前期 4/7(月)～

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	シェイクスピアから大戦前までの演劇の歴史を理解し、現代演劇と映画やアニメなどの映像作品との関係を考える。
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代背景、または上演技術の発展などの要素も含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。
到達目標	①戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成に応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）
授業計画	第1回 文芸と演劇について 第2回 ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 第3回 ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 第4回 ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 第5回 ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 第6回 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 第7回 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 第8回 近代：イブセン① イブセンについて 第9回 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニク 第10回 近代：自然主義から表現主義までの流れ 第11回 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について 第12回 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 第13回 現代：ブレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 第14回 現代：ブレヒト② 現代劇への影響について 第15回 まとめ ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要個所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。
履修上の注意	授業回数 2/3 に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。
教科書	適宜プリントを配布。
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。

演劇と現代社会

栞井 智英

後期 9/29(月)～

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	第2次世界大戦後の日本演劇の発展と英米のマイノリティを扱った演劇、そしてミュージカルに関する基本的知識を習得する。
授業の概要	戦後日本の現代演劇と英米演劇の発展を政治や社会背景と結びつけて解説する。また、作劇術や演技技術の発展などの要素も含めて紹介する。それに加え、映画やアニメなどの映像作品とも関連させて授業を行う。
到達目標	①上演分析に必要な基本的知識を身につけ、実際のレポート作成に応用することができる（汎用的技能） ②演劇の発展の中で登場する重要な演劇人について自分の言葉でしっかり語ることができるようになる（知識・理解）
授業計画	第1回 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 第2回 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 第3回 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 第4回 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 第5回 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 第6回 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 第7回 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場 第8回 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 第9回 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技技術の発展 第10回 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー 第11回 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 第12回 ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 第13回 ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル 第14回 ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：各回授業で扱うテーマの概要を調べ、400字程度でまとめておく。（学習時間2時間程度） 授業後学習：授業で取り上げた内容や重要個所について整理し、授業内で与えられた課題を松蔭Manabaコースコンテンツに提出する。（学習時間2時間程度）
授業方法	講義：講義で概要を解説し、その後提示されたテーマについてディスカッションを行い理解を深める。授業のまとめとして、補足の解説を行う。また、上演の形式などの解説は、映像資料を用いて解説することが多い。
履修上の注意	授業回数2/3に満たないものは、レポート提出の資格を失うものとする。
教科書	適宜プリントを配布。
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。

古典文学特殊講義

後期 9/29(月)～

長谷川 佳男

月曜 13:10～14:40

授業のテーマ	『枕草子』購読
授業の概要	女流文学、随筆文学の最高峰、『枕草子』について講義を行う。みずみずしい感性で知を分類し思いを巡らし、日々をルポルターージュする個性が多くのファンを魅了し続ける、作者清少納言。その文章や表現は、現代の私たちにとっても学ぶものが多い。『源氏物語』とともに、人文科学を志す大学生が、鑑賞力を身につけるべき日本文化の原点のひとつがここにある。
到達目標	(1)『枕草子』を産んだ作者、社会環境が説明できる。【知識・理解】 (2)必要かつ重要な語学力・語彙力を生活文化の古典的常識を身につけ、『枕草子』を原文で読解して味わうことができる。【知識・理解】 (3)必要に応じ異本本文や副文献資料に関心を広げ、原文との比較を通じて鑑賞を深めることができる。【知識・理解】
授業計画	第1回 清少納言の生涯 第2回 奥書 323段(跋文) わが心にもめでたくも思ふ事を 第3回 類聚的章段① 185段 風は 203段 見るものは 第4回 類聚的章段② 225段 社は 155段 うつくしきもの 162段 うらやましきもの 第5回 類聚的章段③ (162段の続き) 254段 うれしきもの 第6回 日記的章段① 139段 頭弁の職にまゐりたまひて 146段 故殿などおはしまさで 第7回 日記的章段② (146段の続き) 第8回 日記的章段③ 182段 宮にはじめてまゐるたるころ 第9回 日記的章段④ (182段の続き) 第10回 日記的章段⑤ 271段 成信中将は 第11回 日記的章段⑥ (271段の続き) 278段 雪のいと高く降りたるを 292段 大納言殿まゐりて文の事など 第12回 随想的章段① 178段 宮仕へ人の里なども 186段 野分のまたの日こそ 第13回 随想的章段② 204段 五月ばかり山里にありく 215段 細殿にびんなき人なむ 第14回 ディスカッションとプレゼンテーション 第15回 分かち合いと期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：授業で触れる予定の章段について、原文の音読を反復によって本文をインプットし、口語訳や脚注の助けを借りながら基本的な単語・文法・古典常識など、読解に必要な言語事項を調べておく。(2時間) 授業後学習：授業で触れた章段について、不足する語学力や文化的知識を補って言語事項を定着させるとともに、原文だけで味わえるよう読み込む。(2時間)
授業方法	原文読解と鑑賞に関する講義。内容理解と鑑賞の味わいを互いに分かち合い、ディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。
履修上の注意	遅刻や欠席を慎むこと。 3分2以上の出席に満たない場合は期末試験を受けることはできない。
教科書	『(原文&現代語訳シリーズ) 枕草子 [能因本]』 笠間書院 ISBN978-4-305-70422-1
参考書	石田穰二『新版 枕草子 上巻下巻 現代語訳付き』(角川文庫) 田中重太郎『枕草子全注釈』(角川書店) 増田繁夫『枕草子』(和泉書院) 新編日本文学全集『枕草子』(小学館) 萩谷朴『枕草子解環』(同朋舎出版)

感情・人格心理学

前期 4/11(金)～

山本 竜也

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	心理学の観点から、感情および人格（パーソナリティ）の主要な理論と日常生活における役割について学ぶ。
授業の概要	ある状況における感情は人それぞれであり、その背後には人格（パーソナリティ）という個人を特徴づけるものがあると考えられている。これらは私たちが日常生活を送るうえで切り離せないものであり、対人関係にも影響を与える。「感情・人格心理学」では、感情や人格（パーソナリティ）について、具体的現象を交えながら学ぶ。
到達目標	1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序、維持、強度と、感情が行動に及ぼす影響について説明できる。【知識・理解】 2. 人格の概念及び形成過程や人格の種類、特性等について説明できる。【知識・理解】 3. 感情や人格（パーソナリティ）のアセスメント方法を説明できる。【知識・理解】
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業概要と単位認定の説明） 第2回 感情の定義と主要な理論 第3回 感情の喚起、維持、強度 第4回 日常生活における感情の役割 第5回 ポジティブ感情の効果 第6回 ネガティブ感情の効果 第7回 感情調整の不全 第8回 感情のアセスメント方法 第9回 人格（パーソナリティ）の定義と主要な理論（人格の種類と特性等） 第10回 人格（パーソナリティ）の形成における生物学的要因 第11回 人格（パーソナリティ）の形成における社会・心理的要因 第12回 人格（パーソナリティ）の障害 第13回 人格（パーソナリティ）のアセスメント方法 第14回 感情・人格（パーソナリティ）の観点からよりよい生き方を考える 第15回 授業のまとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。〈1時間〉 授業後は内容の理解を深め、日常生活における知識や理論の応用について考える。〈3時間〉
授業方法	原則的に講義であるが、適宜演習を取り入れるため積極的に参加すること。演習内容について回答を求めることがある。なお、各回でコメントシートの提出を求め、次の授業開始時に質問などに回答する。
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。遅刻、欠席はしないこと。公認心理師の受験資格取得のために、単位を修得する必要がある科目である。心理学科以外の学科の学生が履修する場合、履修を中止することはできないため、十分に検討したうえで履修登録を行うこと。 修学上何らかの合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに、担当教員に当該授業における具体的な配慮内容について事前に合意できるように努めること。
教科書	指定しない。
参考書	中間玲子（編）『感情・人格心理学』（ミネルヴァ書房、ISBN 9784623087105）

発達心理学A

久津木 文

前期 4/10(木)～

木曜 9:00～10:30

授業のテーマ	生涯を通しての人間の心と認知の発達
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 ①～③は公認心理師カリキュラムにおける大項目。
授業計画	第1回 オリエンテーション 発達とは 第2回 発達の仕組みと様相 第3回 乳幼児発達心理学の研究法 第4回 遺伝と環境 第5回 胎児期・新生児期論 第6回 乳幼児期の運動発達&中間1 第7回 乳児期～知覚 第8回 乳児期～素朴物理学と素朴心理学 第9回 乳児期～情動・愛着の発達論 第10回 乳児期～コミュニケーションの芽生え1 前言語期論 第11回 乳児期～コミュニケーションの芽生え2 言語期 第12回 幼児期～社会性の発達&中間2 第13回 幼児期～表象の獲得 第14回 まとめと期末試験 第15回 試験の講評と復習 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	発達心理学関係の教科書・テキスト(図書館に複数蔵書あり)を読んでおくこと。 授業前学習: 授業で扱うトピックについての予習(2時間)。 授業後学習: 授業で扱ったトピックについての宿題や復習(2時間)。
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。
履修上の注意	私語厳禁 (私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます) 5回の欠席で、受講資格を失います。 *補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 *欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話しに来てください。
教科書	問いからはじめる発達心理学【改訂版】 (有斐閣) ISBN-10: 4641151296
参考書	適宜紹介する

発達心理学B

久津木 文

前期 10/2(木)～

木曜 9:00～10:30

授業のテーマ	生涯を通しての人間の心と認知の発達
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、児童期から高齢期の発達を中心に扱う。
到達目標	1)②誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 2)①認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 3)③自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 4)④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方が得られる【知識・理解】 5)⑤高齢者の社会心理的課題及び必要な支援についての知識が得られる【知識・理解】 ①～⑤は公認心理師カリキュラムにおける大項目。
授業計画	第1回 オリエンテーション これまでのおさらい 第2回 幼児期～言語の獲得 言語を獲得する準備相 第3回 ことばと認知1 語彙獲得の制約法 第4回 ことばと認知2 語用論 第5回 心の理論1 他者理解の発達 第6回 心の理論2 他者理解と抑制&中間試験1 第7回 児童期 認知発達 第8回 児童期 社会性発達 第9回 文化と発達1 多言語の言語発達 第10回 文化と発達2 外国の理解の発達 第11回 青年期 アイデンティティ&中間試験2 第12回 成人期 1 親になること 第13回 成人期 2 中年期 第14回 まとめと期末試験 第15回 試験の講評と復習 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	発達心理学関係の教科書・テキスト（図書館に複数蔵書あり）を読んでおくこと。 授業前学習：授業で扱うトピックについての予習（2時間）。 授業後学習：授業で扱ったトピックについての宿題や復習（2時間）。
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 *補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 *欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話しに来てください。
教科書	問いからはじめる発達心理学【改訂版】（有斐閣） ISBN-10：4641151296
参考書	適宜紹介する

心理療法C

坂本 真佐哉

前期 4/11(金)～

金曜 9:00～10:30

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ－Ⅲ. 家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 心理療法Cでは、家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。【知識・理解】 2. 身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。【知識・理解】【態度・志向性】
授業計画	第1回 心理療法における「問題」の捉え方 第2回 さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第3回 家族療法の理論と実際（1）家族療法とシステム論 第4回 家族療法の理論と実際（2）家族療法の実際 第5回 ブリーフセラピー概論 第6回 ミルトン・エリクソンの心理療法 第7回 MRIモデルの理論と技法（1）変化の理論示 第8回 MRIモデルの理論と技法（2）コミュニケーション理論 第9回 ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（1）基本的な考え方と特徴 第10回 ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（2）解決構築とは？ 第11回 ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（3）質問技法の実際 第12回 ナラティブ・セラピー（1）社会構成主義の理論 第13回 ナラティブ・セラピー（2）会話の実際 第14回 ナラティブ・セラピー（3）事例を中心に 第15回 試験と総括 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 （準備学習の内容）	授業前準備学習：各回で扱う内容や用語について家族療法やブリーフセラピーの関連書にて予習（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（2時間）
授業方法	講義形式であるが、授業中に与えられたテーマに関して、ペアもしくはグループでディスカッションを行うことがある。各回の授業終了時にリアクションペーパーを記入する。
履修上の注意	毎回資料をmanabaにアップするか授業中に配布する。リアクションペーパーについては、クラス内において開示されても良い内容について記述すること。
教科書	プリント資料をmanabaにアップするか配布する。
参考書	坂本真佐哉著（2019）「今日から始まるナラティブ・セラピー：希望をひらく対人援助」日本評論社 浅井伸彦編著、松本健輔著、坂本真佐哉監修（2021）「はじめての家族療法：クライアントとその関係者を支援するすべての人へ」北大路書房 坂本真佐哉編（2017）「逆転の家族面接」日本評論社 坂本真佐哉、黒澤幸子編（2016）「不登校・ひきこもりに効くブリーフセラピー」日本評論社 日本ブリーフサイコセラピー学会編（2020）「ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて」遠見書房

心理療法 D

小松 貴弘

後期 9/26(金)～

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ 一D. 対人関係精神分析
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶことを目指す。「心理療法D」では、主として対人関係精神分析をベースとした心理療法について講義を行う。対人関係精神分析は、サリヴァンを源流とする考え方であり、フロイトの精神分析がより生物学的要因を重視するものであったのに対して、社会的要因を重視したことに特徴がある。この立場の基本的な考え方と技法を学ぶとともに、受講生が心理療法の基礎の基礎から学ぶことを目指す。
到達目標	(1) 心理療法がどのような営みであり、どのような過程で学ばれるものであるかについて説明できる。【汎用的技能】 (2) 対人関係精神分析の基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。【知識・理解】
授業計画	第1回 オリエンテーション：心理療法を学ぶ意味と心の捉え方 第2回 心理療法の前提(1)：心の健康と悩み 第3回 心理療法の前提(2)：心の成長 第4回 心理療法の本質(1)：心理療法とは何か 第5回 心理療法の本質(2)：心理療法のまなざし 第6回 心理療法の本質(3)：心理療法家の心構え 第7回 心理療法の実際(1)：事例の提示 第8回 心理療法の実際(2)：クライエントの視点 第9回 心理療法の実際(3)：セラピストの視点 第10回 心理療法の実際(4)：面接関係で起きること 第11回 対人関係精神分析を学ぶ(1)：対人関係精神分析の諸特徴 第12回 対人関係精神分析を学ぶ(2)：サリヴァンのパーソナリティ論 第13回 対人関係精神分析を学ぶ(3)：サリヴァンの発達論 第14回 対人関係精神分析を学ぶ(4)：サリヴァンの心理療法論 第15回 授業のまとめと期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前には各回の授業テーマについて教科書及び関連する文献に目を通しておくこと。<2時間> 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること。<2時間>
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求められることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。
教科書	『時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門』、小松貴弘・渡辺亘・中村博文編著、創元社、2019年、ISBN978-4-422-11721-8
参考書	『対人関係精神分析を学ぶ』、一丸藤太郎著、創元社、2020年、ISBN978-4422117553 その他、授業中に適宜紹介する。

青年期の臨床心理学

後期 10/1(水)～

黒崎 優美

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	青年期の諸課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	青年期に関連の深さまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。授業内のワークや課題への取り組みを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	(1)青年期の諸課題について、臨床心理学的な観点から理解し、他者に伝えることができる。【知識・理解】 (2)授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】 (3)臨床心理学への興味・関心を深め、これから学んでいきたいことを明確にし他者に伝えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 導入 授業の進め方、生涯発達と青年期 第2回 青年期の人間関係(1) 親子関係 [PC 必携] 第3回 青年期の人間関係(2) 友人・恋愛関係 [PC 必携] 第4回 青年期の就活・就労(1) 若者の働き方 [PC 必携] 第5回 青年期の就活・就労(2) 働くことと連結 [PC 必携] 第6回 青年期とひきこもり(1) ひきこもりの現状と課題 [PC 必携] 第7回 青年期とひきこもり(2) ひきこもりの社会的解決 [PC 必携] 第8回 青年期の非行・犯罪(1) 非行・犯罪の現状と課題 [PC 必携] 第9回 青年期の非行・犯罪(2) 相互作用からみた精神鑑定、裁判員制度 [PC 必携] 第10回 青年期の精神疾患と心理的支援(1) 心的状態としての“統合失調” [PC 必携] 第11回 青年期の精神疾患と心理的支援(2) “うつ”と“新型うつ” [PC 必携] 第12回 青年期の精神疾患と心理的支援(3) 摂食障害、醜形恐怖 [PC 必携] 第13回 課題発表または課題レポート公開 「青年期と心理」 第14回 課題へのコメント、質疑応答 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭 manaba コンテンツ）確認 <2時間> 授業後学習：課題提出（松蔭 manaba レポート等）、まとめプリント作成 <2時間>
授業方法	講義、演習（ワーク、プレゼンテーション、ディスカッション）<BYOD 対象科目>
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。 配付資料は manaba コンテンツでも共有します。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。

教育・学校心理学

後期 10/1(水)～

黒崎 優美

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	教育・学校分野の心理学
授業の概要	教育現場において生じる諸課題及びその背景について、また教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 授業内のワークや課題への取り組みを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	(1)教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 (2)教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【態度・志向性】 (3)授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 導入 授業の進め方、子どもと教育・学校・社会～ 第2回 グループとしての学校(1) グループ心性と“チーム学校” [PC 必携] 第3回 グループとしての学校(2) “チーム学校”における教師・スクールカウンセラーの役割 [PC 必携] 第4回 いじめの心理(1) 歴史と現状 [PC 必携] 第5回 いじめの心理(2) 理解と対応 [PC 必携] 第6回 学校における暴力(1) 歴史と現状 [PC 必携] 第7回 学校における暴力(2) 理解と対応 [PC 必携] 第8回 不登校の心理(1) 歴史と現状 [PC 必携] 第9回 不登校の心理(2) 理解と対応 [PC 必携] 第10回 その他の教育課題(1) 相対的貧困、ヤングケアラーと教育 [PC 必携] 第11回 その他の教育課題(2) 特別支援教育 [PC 必携] 第12回 その他の教育課題(3) インクルーシブ教育 [PC 必携] 第13回 課題発表とレポート公開「子どもと教育・学校・社会」 [PC 必携] 第14回 課題への講評、質疑応答 第15回 まとめと試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭 manaba コンテンツ）確認 <2時間> 授業後学習：課題提出（松蔭 manaba レポート等）、まとめプリント作成 <2時間>
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）<BYOD 対象科目>
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。 配付資料は manaba コンテンツでも共有します。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	石隈利紀編 2019 教育・学校心理学(公認心理師の基礎と実践 / 野島一彦, 繁樹算男監修 ; 第18巻) 遠見書房ISBN 9784866160689 その他については、適宜紹介します。

対人コミュニケーション論

待田 昌二

後期 9/26(金)～

金曜 14:50～16:20

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ全員が顔見知りというコミュニティでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。
到達目標	(1) 対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴及び対応する心の働きを説明できる。【知識・理解】 (2) 日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回 姿かたち—なぜ様々な顔があるのか 第3回 姿かたち—顔立ちから性格はわかるか 第4回 姿勢としぐさ—感情の伝達 第5回 姿勢としぐさ—様々なしぐさ 第6回 表情—基本的表情 第7回 表情—笑いと表情の統制 第8回 情動反応 第9回 情動の誤帰属と目に表れる情動反応 第10回 目は心の窓：凝視と視線回避 第11回 対人距離 第12回 行動観察と達成度確認試験 第13回 嘘は見破れるか 第14回 装いの社会・心理的機能 第15回 社会的スキル 期末試験 *全ての授業回で[PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習： 松蔭manabaで授業前に示す課題を行う (学習時間1時間) 授業後学習： 松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える (学習時間3時間)
授業方法	主に講義形式だが、manabaからの課題提出などを授業中に行う。<BYOD 対象科目>
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭 manaba で示す授業前学習、授業後学習を行うこと。
教科書	なし。適宜、プリントを配布する。
参考書	松蔭 manaba において紹介する。

被害者支援の心理学

後期 10/1(水)～

大和田 攝子

水曜 13:10～14:40

授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。
到達目標	(1) 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】 (2) 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第 1 回 被害者支援とは 第 2 回 被害者支援の歴史 ～被害者はどのように扱われてきたのか 第 3 回 被害者の抱える心理的問題 ～二次被害とは 第 4 回 被害の体験を聴く (ゲスト・スピーカー招聘予定) 第 5 回 被害者カウンセリングの基本 第 6 回 トラウマと PTSD 第 7 回 PTSD の心理療法 第 8 回 質疑応答と試験① 第 9 回 遺族の心理的問題と対応 第 10 回 性暴力被害者の心理的問題と対応 第 11 回 虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第 12 回 ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第 13 回 援助者のストレスと対応 第 14 回 質疑応答と試験② 第 15 回 グループ発表とディスカッション *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：授業では小グループでの発表を予定しているため、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、発表資料を用意する。<2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する。<2時間>
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3 以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子 (編著) 誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2

食生活論

川口 真規子

前期 4/10(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	健康な生活を送るための食生活について、様々な観点から解説する。 健康とは何か、そして健康のために食生活はどうあるべきかを考えられるようになることを目標とする。
授業の概要	『食』を食生活と健康づくりの観点から解説する。本講義は、2年次生以降、食の学びを深めるために基盤となる科目として位置付ける。まず、「食生活と栄養（5大栄養素とその他の成分）」について、化学的・生化学的視点から概説する。 次に「食品の機能」、「食生活と調理」、「食生活と食文化」、「食生活と環境」などについて解説する。
到達目標	1) 5大栄養素についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 2) 食生活、調理、食文化についての基本的な内容を説明できる。【知識・理解】 3) 食生活と健康についての基本的な問題に答えられる。【知識・理解】
授業計画	第1回 はじめに ～人の一生と食事～ 私たちの食生活と健康 第2回 食生活と栄養(炭水化物) 第3回 食生活と栄養(タンパク質①) 第4回 食生活と栄養(タンパク質②) 第5回 食生活と栄養(脂質) 第6回 食生活と栄養(ビタミンとミネラル①) 第7回 食生活と栄養(ビタミンとミネラル②)【PC 必携】 第8回 おいしさと健康のための調理 食品の機能【PC 必携】 第9回 食生活と食文化【PC 必携】 第10回 ライフサイクルと食生活(妊娠期・授乳期) 第11回 ライフサイクルと食生活(乳児期・幼児期) 第12回 ライフサイクルと食生活(学童期・思春期・成人期) 第13回 ライフサイクルと食生活(高齢期)健康づくりと食生活【PC 必携】 第14回 食育の意義 食生活と環境【PC 必携】 第15回 まとめと期末テスト *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前：授業計画に従って教科書の該当するところをあらかじめ読んでおく。 調査学習の課題についてグループでディスカッションを行いプレゼンの準備をする。 (学習時間：2時間) 授業後：配布プリント使い学習内容をノートにまとめる。(学習時間：2時間)
授業方法	《BYOD対象科目》 講義 ただし、「食生活と食文化」の授業時にはグループに分かれて調査学習とプレゼンテーションを行う。
履修上の注意	内容が多岐に渡りますので授業後の自主学習が必須です。積極的に学ぶ姿勢が必要です。
教科書	大学で学ぶ食生活と健康のきほん 吉澤みな子・武智多与理・百木和 著 化学同人 ISBN 978-4-7598-1828-4 適宜プリントを配布
参考書	特になし

神戸論

江 弘毅

前期 4/7(月)～

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	開港以来その都市としての性格を決定づけられた神戸の成り立ちを知り、その特徴と魅力を概観する。
授業の概要	この授業では、松蔭が神戸・地元の大学であることを前提に、都市社会のモデルとして神戸を取りあげ、現代社会における都市生活についての独自の魅力と社会的な問題を理解し、その問題を解決する方法について学ぶ。 最初に、神戸の歴史、開港が決定づけた街の性格、生活様式から文化までを具体的な事例によって学ぶ。 続いて、神戸のたぐいまれな街の魅力とそのさまざまなコンテンツを知り理解する。 最後に大水害、空襲による破壊、震災と復興を経験した都市として神戸を見直すことにより、今後、災害に備えた生活者として必要な知識をまとめる。
到達目標	(1) 都市としての神戸の魅力について語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2) 神戸を「わがまち」としてとらえ、独自のまちづくりについて立案することができる。(知識・理解) (3) 神戸で都市生活、グルメやファッション、クリエイティブ産業にかかわる人的ネットワークをつくること(態度・志向性)
授業計画	第1回 オリエンテーション。この授業でなにをやるのか。どんな授業なのか [PC 必携] 第2回 神戸と二度の開港。古代から近世 [PC 必携] 第3回 慶応3年(1868)の開港で街の性格が決定づけられた神戸 [PC 必携] 第4回 開港と外国人の居住による文化 [PC 必携] 第5回 外国人居留地、雑居地ほかの近代建築で神戸のまちをとらえる [PC 必携] 第6回 開港と洋食文化 [PC 必携] 第7回 神戸のパン、スイーツ [PC 必携] 第8回 神戸と中国人、中華街の南京町 [PC 必携] 第9回 神戸の観光 [PC 必携] 第10回 神神戸の地勢、自然 [PC 必携] 第11回 災害と神戸 [PC 必携] 第12回 洋装の黎明からファッション都市・神戸へ [PC 必携] 第13回 阪神間モダニズムについて [PC 必携] 第14回 メディアのなかの神戸 [PC 必携] 第15回 神戸流生活術 [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	神戸の都市としての特徴や魅力をmanabaや参考書はじめ、文学作品、雑誌や新聞、印刷物、映像、デザイン、音楽、グルメ…から抽出し、資料としてストックし、学習すること(90分)。 その資料に基づき、「現地」「現場」を訪ねて実感すること(120分)。
授業方法	あらかじめ毎回manabaのコースコンテンツに講義の内容をアップします。 レジュメや資料もmanabaにアップします。 講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 (BYOD対象科目) 【実務経験のある教員等による授業】 都市情報誌の編集長であった職歴を生かして、神戸におけるグルメ、ファッション、観光産業などの事例を紹介しつつ、実務家としての人的ネットワークを生かしたフィールドワークを行う。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることが出来ません。
教科書	なし。manabaと毎回の授業内容に応じて。レジュメや資料を配付します。
参考書	『神戸学』崎山昌廣監修、神戸新聞総合出版センター ISBN:4-343-00353-1

『外国人居留地と神戸』 田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343007339 『神戸と洋食』 江弘毅著、神戸新聞総合出版センター、ISBN: 9784343010575 『古地図で見る神戸』 大国昌美著、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006035 『灘の歴史』 田辺真人監修、灘区 80 年史編集委員会編、神戸新聞総合出版センター ISBN:9784343006455 『ミナト神戸の宗教とコミュニティー』 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編、神戸新聞 総合出版センター ISBN:9784343007254 『神戸外国人居留地—ジャパン・クロニクル紙ジュビリーナンバー—』神戸新聞出版センター ISBN: 9784875210481 『神戸の中国料理』 神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280 『南京町と神戸華僑』 吳宏明、高橋晋一編著、松籟社 ISBN-10:4879843385

家族文化論

稲見 直子

前期 4/9(水)～

水曜 14:50～16:20

授業のテーマ	現代社会における子どもや子育て家族をめぐる諸問題や諸制度について理解する。
授業の概要	この授業では、社会における「子ども」をテーマに、現代社会における子どもや子育て家族が抱える諸問題、およびその社会的背景を考察するほか、子どもや子育て家族の生活を支援するための諸制度について学ぶ。
到達目標	(1)子ども(乳幼児)の発達と生活についての基礎的事項を専門用語を使って説明できる。【知識・理解】 (2)現代社会における子どもや子育て家族をめぐる諸問題や諸制度を理解し、それらの解決策を提案することができる。【汎用的技能】 (3)保育観察や子育て支援センターの見学を通して、子ども(乳幼児)と関わるためのコミュニケーションについて実践的に学ぶ。【態度・志向性】
授業計画	第1回 幼い頃の振り返り、妊娠と出産 第2回 生殖・出産をめぐる諸問題 第3回 <子ども>へのまなざしの歴史的变化 第4回 子どもの心身の発達と生活習慣 第5回 子どもの遊びと社会性の発達、保育観察事前指導 第6回 保育観察(ゲストスピーカー) 第7回 育児不安、母性神話、3歳児神話 第8回 児童虐待、社会的養護 第9回 ひとり親家庭と子どもの貧困 第10回 子育てを支えるしくみ、子育て支援センター見学事前指導 第11回 子育て支援センター見学(学外見学) 第12回 子どもの社会的孤立 第13回 介護と子ども 第14回 児童福祉 第15回 振り返りと期末テスト *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回の授業で扱うテーマに関する新聞記事を探して読み、下調べをする。<2時間> 授業後学習:各回の授業で扱ったキーワードを整理しまとめる。<2時間>
授業方法	基本的に講義形式をとるが、授業内ではコメントシートの記入やグループワークなども取り入れ、学生の主体的な参加を促す。
履修上の注意	・授業回数の3分の1以上欠席した人は、定期試験の受験資格を失う。 ・20分以上の遅刻は欠席とみなす。また遅刻3回で欠席1回とする。 ・学外見学を実施するため、それに伴う交通費や入場料が必要になる。
教科書	適宜レジメと資料を配布する。
参考書	『『家族変動と子どもの社会学—子どものリアリティ/子どもをめぐるポリティクス』、野辺陽子編著・元森絵里子・野田潤・日比野由利・三品拓人・根岸弓、新曜社、2022、ISBN978-4788517950

色彩学

花田 美和子

前期 4/11(金)～

金曜 9:00～10:30

授業のテーマ	色彩の基礎知識を習得する。
授業の概要	人は情報の大部分を視覚から得ている。その中でも色のもつ影響力は大きい。本講義では色の性質について学び、色の表し方や色彩調和の理論、色の測定方法についての基礎知識を身に付ける。さらに、演習課題を通して、色の効果的な使い方についても学ぶ。
到達目標	代表的な表色系とカラーオーダーシステムについて説明することができる【知識・理解】 色彩調和に基づいて、色を使った表現をすることができる【汎用的技能】 色と光の関係について科学的に説明することができる【知識・理解】 生活と色に関する諸問題について考察することができる。【知識・理解】
授業計画	第1回 ガイダンス、生活と色 第2回 光と色 第3回 色の生理 第4回 色の測定 第5回 色の表示1 (慣用色名と系統色名) 第6回 色の表示2 (マンセル表色系) 第7回 色の表示3 (PCCS、オストワルト表色系) 第8回 カラーコーディネートの実践 [PC 必携] ※地域連携課題 第9回 色の調和1 (PCCS、ムーン・スペンサー、オストワルト) 第10回 色の調和2 (ルード、ジャッド) 第11回 配色技法 第12回 色の心理的効果1 第13回 色の心理的効果2、流行色 第14回 色と文化 第15回 まとめと期末試験 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習：教科書の当該箇所を読んで予習する (1.5時間) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所をプリント等で確認し、演習課題に取り組む。ドリルで復習をする。(2.5時間)
授業方法	講義、一部演習を含む。 BYOD 対象科目
履修上の注意	1. 教科書、配色カード、のり、はさみ、その他指示されたものを持参すること。 2. 配色カードは試験にも使用するので、各自必ず準備すること。 3. ほとんどすべての授業回で manaba を使用するため、PC の携行を推奨する。
教科書	「生活の色彩学 一快適な暮らしを求めて―」橋本令子・石原久代 編著 (朝倉書店) ISBN:978-4-25-460024-7 「新配色カード 199a」日本色研事業株式会社
参考書	「カラーコーディネーションの基礎」東京商工会議所 (中央経済社) ISBN:978-4502445804

化粧心理学

鳥居 さくら

後期 10/2(木)～

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	化粧行動の心理学的観点からの考察
授業の概要	化粧行動は、人間の生存に直接関わる行為ではないにも関わらず、古来より世界各地でおこなわれてきた。その意味を知覚心理学、認知心理学、社会心理学、生理心理学、健康心理学、人格心理学、高齢者心理学などのさまざまな心理学的見地から考察する。また実際の生活場面に適した自己表現としての化粧について考える。人間として心身ともに健康に生きていくための力と知識を化粧行動をとおして身につける。
到達目標	1. 化粧行動の効用を複数の心理学的観点から説明できる。[知識・理解] 2. 生活における化粧行動の心理的意味について自分の考えを述べることができる。[知識・理解][態度・志向性] 3. 状況や場面に応じた自己表現方法について考えることができる。[知識・理解][汎用的技能]
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 化粧と自己表現 [PC 必携] 第3回 社会と自己表現 [PC 必携] 第4回 化粧と自己愛 [PC 必携] 第5回 化粧と対人魅力 [PC 必携] 第6回 肌の視覚的認知 [PC 必携] 第7回 肌とストレス [PC 必携] 第8回 肌と印象 [PC 必携] 第9回 顔における年齢・性別の印象 [PC 必携] 第10回 表情の視覚的特徴 [PC 必携] 第11回 顔と化粧に関するグループワーク [PC 必携] 第12回 顔と化粧に関するグループワーク発表 [PC 必携] 第13回 化粧と感情 [PC 必携] 第14回 医療分野や高齢者における化粧の心理的効果 [PC 必携] 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：授業で指示する資料を収集し、まとめる。(学習時間：2) 授業後学習：授業で指定された課題をレポートとして作成、または、松蔭manabaに投稿する(学習時間：2<時間>)
授業方法	主に講義形式でおこなう。顔写真や化粧品などを用いて評価し、グループでディスカッションし、レポートを作成する授業回もある。manaba を利用し小テストやアンケートなどをおこなう授業回もある。 <BYOD 対象科目>
履修上の注意	10回以上の出席がないと、受講資格を失う。私語厳禁とする。
教科書	なし。適宜、資料を manaba に添付する。
参考書	「顔の百科事典」 丸善出版 ISBN: 978-4-621-08958-3 「化粧行動の社会心理学 化粧する人間のこころと行動」 北大路書房 ISBN: 978-4-7628-2226-1

神戸の食と文化

江 弘毅

前期 4/10(木)～

木曜 9:00～10:30

授業のテーマ	地元・神戸の食と文化を概観するとともに、その特徴や魅力を押さえる。
授業の概要	海と山に囲まれ自然と豊富な食材に恵まれた環境にある神戸は、開港以来、外国文化を取り入れ、洋食・パン・洋菓子、中国料理やインド料理、ベトナム料理など、日本独自の料理に限られることのない多様で国際色豊かな食文化を培ってきた。 また近年、世界からも注目される日本の味わいの土台をつくり、外国の食文化と日本独自の食文化をうまく融合させて、日本の食をけん引してきた神戸の食。 現在も神戸は日本を代表する「グルメ都市」として、さまざまな食のトレンドを牽引し、観光客を魅了している。 その背景にある文化を歴史的に考察しながら、江戸時代から現代に至る神戸の食文化の変遷と熟成について理解を深めるとともに、あたらしい神戸の食の魅力創造にもスポットを当てる。
到達目標	(1)「地元人」というスタンスから神戸の食について知り、語り、書き、表現することができる。(知識・理解) (2)和食、フランス料理、中国料理などの神戸の代表的料理の特徴を理解し、わかりやすく説明することができる。(知識・理解) (3)魅力ある神戸グルメについて、独自の企画を立てたり情報発信することができる。(態度・志向性)
授業計画	第1回 ガイダンス この授業で何をやるのか。どんな授業なのか [PC 必携] 第2回 神戸の食、の現在進行系～最前線 [PC 必携] 第3回 神戸～兵庫県の地勢、自然と恵まれた食材 [PC 必携] 第4回 神戸の食を「和食」から見る＝「上方(摂津の)料理」の伝統 [PC 必携] 第5回 灘の生一本。日本酒づくり [PC 必携] 第6回 神戸開港と洋食。その始まりと展開 [PC 必携] 第7回 神戸の洋食とその系譜 [PC 必携] 第8回 「パン・スイーツの街・神戸」の歴史と展開 [PC 必携] 第9回 世界を魅了する「神戸ビーフ」 [PC 必携] 第10回 神戸のエスニック・コミュニティ(とくにイスラム圏、ベトナム)に見る食 [PC 必携] 第11回 神戸の中国料理と中華街・南京町 [PC 必携] 第12回 神戸のお好み焼きと地ソース [PC 必携] 第13回 神戸観光とグルメ。フードツーリズムの観点から [PC 必携] 第14回 神戸の食はメディアにどう取り上げられているか [PC 必携] 第15回 この授業のまとめと試論提出 [PC 必携] *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前、授業後にmanabaおよび神戸の食に関する参考書を読んで、キーワードや専門用語を理解する(90分)。 神戸にある老舗の洋食店、パン屋、洋菓子店、中国・インド料理店など、そして長田区のお好み焼き店集中エリアを意識して訪ね、食べるなど実体験する(90分)。 雑誌など出版物の神戸の特集グルメ記事や新聞、雑誌、印刷物そしてインターネットで神戸食関連の資料を集め、ストックし、学習する(60分)。
授業方法	講義は毎回manabaにコース・コンテンツを挙げます。 毎回、レジュメや資料をmanabaでアップし講義します。 授業中のその都度の質問と応答、そして毎回の講義についてのリアクションペーパーをmanabaのレポートに書いてください。 PCもしくはタブレットは必携のこと。 (BYOD 対象科目)
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない者は期末試験を受けることができません。
教科書	毎回、レジュメや資料を配布します。
参考書	『聞き書 兵庫の食事(日本の食生活全集)』日本の食生活全集兵庫編集委員会編、農山漁村文化

	<p>協会 ISBN-10454091006 : X</p> <p>『外国人居留地と神戸』 田井玲子著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343007339</p> <p>『神戸と居留地』 神戸外国人居留地研究会編、神戸新聞総合出版センター ISBN-10: 4343003159</p> <p>『神戸と洋食』 江弘毅著、神戸新聞総合出版センター ISBN: 9784343010575</p> <p>『神戸の中国料理』 神戸新聞出版センター ISBN:9784875211280</p> <p>『神戸のパン・ケーキ・チョコレート』 神戸新聞出版センター ISBN-10: 487521325</p> <p>『神戸とお好み焼き 比較都市論とまちづくりの視点から』 三宅正弘著、神戸新聞総合出版センター IISBN-10: 4343002055</p> <p>『日本外食全史』 阿古真理著、亜紀書房 IISBN-9784750516837</p> <p>『ケンミン食のなぜ』 阿古真理著、亜紀書房 IISBN-9784750517834</p>
--	---

ジェンダーとファッション

後期 10/2(木)～

戸田 賀志子

木曜 13:10～14:40

授業のテーマ	ジェンダーの視点からみるファッション
授業の概要	ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、日々更新され続けているテーマについてメディア（新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど）をはじめ視覚資料を多用することによって歴史的に 授業の概要 跡づけ、今日的な問題として捉えるための基本的な考え方への導入を図る。
到達目標	(1)ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考え、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)ヒトと衣服の関係性をジェンダーの視点から捉え、具体的にわかりやすい文章で述べるができる。【汎用性技能解】 (3)課題について討議、発表することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ジェンダーとは 第3回 メディアにみるジェンダーファッション[PC 必携] 第4回 発表 第5回 『ボーイスカート』を読む 第6回 発表 第7回 ジェンダーと表象 [PC 必携] 第8回 ジェンダーと色 [PC 必携] 第9回 ジェンダーと制服 第10回 発表 第11回 スカートとズボンの表象 第12回 ディズニープリンセスにみるジェンダー[PC 必携] 第13回 メイクにみるジェンダー 第14回 ジェンダーフリーファッション 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：メディア（新聞、雑誌、映像、インターネット）などを通じ、ジェンダーやファッションイメージに意識的に触れ、日常にある「…らしさ」をみつける。事前に指定されたキーワードに基づいて下調べを行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容を確認、整理する。要点をまとめる。（学習時間：2時間）
授業方法	講義：事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループ・ワークやディスカッションを行う。視聴覚教材（パワーポイントやDVD）を活用し、理解を深める。 今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。<BYOD対象科目>
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない場合は、受講資格を失う。
教科書	とくに定めない。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。

デジタルデザイン論

後期 9/30(火)～

山本 浩司

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	デジタル技術とweb デザインについて
授業の概要	前半: 普段無意識に接している『デジタル』。それがどのような仕組みで動いているのか、対義である『アナログ』との比較を通して、それらの違いと特徴を学びます。また、デジタル時代の問題点やその対策についても考察します。 後半: 普段目にするwebサイトやブログ、SNSなどの画面はどのように作られているのかを学び、空間デザインやファッション、グラフィックといった他の分野のデザインとはどう違うのか、また、どのような点が共通しているのかについて考察します。
到達目標	デジタル技術およびweb デザインの仕組みを理解できる。【知識・理解】 デジタルでのデザイン制作をするために必要な発想・思考ができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 ガイダンス～デザインの定義と領域 第 2 回 身の回りのアナログとデジタル 第 3 回 アナログからデジタルへ～メディア技術の歴史について学ぶ 第 4 回 デジタル技術のメリットとデメリット 第 5 回 デジタル技術と著作権の問題について考察する 第 6 回 コンピュータの仕組みを学び、これからのデジタル社会を考察する 第 7 回 デジタルデータのフォーマットと管理方法 第 8 回 前半のまとめと試験 第 9 回 web サイトの成り立ちとその仕組み 第 10 回 web デザインについて学ぶ(1)web のトレンドの変化 第 11 回 web デザインについて学ぶ(2)文字のデザイン 第 12 回 web デザインについて学ぶ(3)色の持つ意味 第 13 回 web デザインについて学ぶ(4)美しいページレイアウト 第 14 回 web デザインについて学ぶ(5)ユーザビリティとアクセシビリティ 第 15 回 後半のまとめと試験 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 前回までの学習内容をよく理解し、復習に努めてください。(学習時間 2 時間) 授業後学習: 普段から目に留まる web サイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努めてください。(学習時間 2 時間)
授業方法	講義: スクリーンに画像を投影しながら進めます。前半(1-7回目)と後半(8-15回目)に分けて行い、前半ではアナログとデジタルの特徴について、後半では、webデザインを中心にデジタルデザインを行う上で必要な知識について学びます。前後半のまとめとしてレポートの作成と試験を行います。
履修上の注意	前半と後半に1回ずつ試験を実施しますので、復習に努めてください。
教科書	毎回、資料を配付します。
参考書	

インテリア史

鈴木 亮太

後期 9/30(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	インテリアデザインの歴史を概観する
授業の概要	古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を概観する。 視覚的資料を用いながら、西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920年代から30年代のムーブメントを経て、戦後から近代に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れた空間デザインやインテリアエレメントの事例とその背景についての理解を深める。 また、デザインの幅広い教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説を行う。
到達目標	(1) インテリア史上の主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。【知識・理解】 (2) 著名ないくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーについて説明できる。【知識・理解】 (3) 各自の好きなデザイン作品やデザイナーをいくつか挙げ、特徴を説明することができる。【知識・理解】
授業計画	【椅子とあかりの基礎知識】 第1回 ガイダンス、椅子と照明の基礎知識 【日本・西洋の空間とインテリアエレメント】 第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメント-古代・中世 第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメント-近世 第4回 問題解説①-西洋古典のインテリア、日本伝統の空間とインテリアエレメント-古代、ミニテスト1 [PC必携] 第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメント-中世・近世 第6回 身近にある西洋古典と日本伝統の空間の事例見学 [学外研修] 第7回 日本とヨーロッパの民家・町家、問題解説②-日本伝統の空間とインテリアエレメント、ミニレポート1 【近代以降のデザインとインテリア】 第8回 モダンデザインの黎明-ジャポニズム/万国博覧会・明治の日本 第9回 アール・ヌーヴォー (新しい芸術) のデザイン 第10回 初期近代建築と1910-30年代のデザイン・ムーブメント 第11回 バウハウスと巨匠たちの時代とデザイン 第12回 北欧のモダンデザイン、問題解説③-近代のインテリア、ミニテスト2 [PC必携] 第13回 ミッド・センチュリーのアメリア・イタリア、日本の近代化 第14回 ポスト・モダニズムの時代、問題解説④-日本の近代化、ミニレポート2 第15回 期末試験、補足とミニレポートのまとめ ※ミニテスト・レポートは状況に合わせて実施回を変更することがある。 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：各回授業前にテキストの該当部分を読み、参考資料を調べする。(2時間) 授業後学習：各回授業で参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて学習を深める。また、テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うことが望ましい。(2時間)
授業方法	講義：各回授業においてテーマに関する講義を行う。ミニテストは個人ノートパソコンを使用し、授業内に行う。ミニレポートは出題の翌週までにmanaba(レポート)に提出する。(BYOD対象科目)
履修上の注意	【留意事項】 ミニテストはmanabaの小テスト、ミニレポートはmanabaのレポート機能を利用する。尚、ミニテストは授業内に行うため、PC必携とする。実施回に変更がある場合は事前に通知する。学外研修で必要な入場料、交通費は自己負担とする。

	<p>【単位取得について】 また、出席回数が開講日数の2/3に満たないものは、単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。</p>
教科書	<p>『インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻』,一般財団法人 インテリア産業会,ISBN 978-4-86374-142-3 適宜、プリントを配布する。</p>
参考書	<p>『インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2024 上巻』HIPS 合格対策プロジェクト,ハウジングエージェンシー,ISBN-10:489990441X ※ただし最新年度版が出版された場合はそちらを購入すること 『増補新装 カラー版 世界デザイン史』阿部公正,美術出版社,ISBN-10:4568400848 その他、授業中に紹介する。</p>

ブライダル演習 A

西川 良子

後期 4/11(金)～

金曜 10:40～12:10

授業のテーマ	ビジネスとしてのブライダルを題材に文化やプランナーの役割等について学び、現在のブライダル業界において必要とされる知見を深める。
授業の概要	ブライダルをビジネスのひとつと捉え、文化、マーケティング、プランニング、プロモーション、ホスピタリティ等、ブライダルに関連する事柄を多角的に学ぶ。ウェディングドレス・婚礼衣装およびブライダルファッション全般や日本をはじめとする世界のブライダルの風習や歴史など文化面を理解する。 演習を通じてブライダル業界の実態やトレンド、プランナーの役割、マーケティングなどの知識を修得する。
到達目標	・「ブライダル産業」の位置付け、業務内容について理解できる。【知識・理解】 ・ ブランドイメージを伝えるメディア・デザインの必要性和特徴が理解できる。【知識・理解】 ・ 結婚式の提案ができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ブライダルファッションと婚礼衣装 第 3 回 ブライダルファッションと婚礼衣装の提案 第 4 回 プレゼンテーション 第 5 回 結婚式のホスピタリティ【ゲストスピーカー】 第 6 回 結婚式のホスピタリティシミュレーション 第 7 回 結婚式の式次第について(神前式・キリスト教式・人前式など) 第 8 回 婚礼料理について 第 9 回 結婚披露宴について 第 10 回 ブライダルの現場【学外研修】 第 11 回 結婚式プランニング(調査) 第 12 回 結婚式プランニング(考案) 第 13 回 プレゼンテーション 第 14 回 プランナーに必要なスキル【ブライダルコーディネーター模擬テスト】 第 15 回 解答・総評 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容を確認整理する。 模擬テストにむけて学んだことを復習する。(2時間)
授業方法	演習形式。 講義で得た学びや情報をもとにグループで課題に取り組む。 取り組んだ課題についてプレゼンテーションを行う。
履修上の注意	演習授業であるため出席を重視する。授業回数の 2/3 以上の出席を必要とする。 学外見学の際に入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担。 情報収集やデータ作成を行うため、各自 PC を持参することが好ましいが、授業内に完成できない場合は課題とする。
教科書	「ブライダルコーディネーターテキストスタンダード」公益社団法人 日本ブライダル振興協会 ※教科書についてはファッション・ハウジングデザイン学科準備室で購入手続きをすること。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。

ブライダル演習 B

後期 9/26(金)～

西川 良子

金曜 14:50～16:20

授業のテーマ	ブライダル演習 A での学びをもとにさらに高度な知識を身につけ、より実践的なおもてなしのスキルを修得する。 ブライダルコーディネイト技能検定にむけての検定対策を行う。
授業の概要	ブライダルビジネスにおいて必要とされる高度な知識とスキルを身につける。
到達目標	・「ブライダル産業」の位置付け、業務内容について理解できる。【知識・理解】 ・ ブランドイメージを伝えるメディア・デザインの必要性和特徴が理解できる。【知識・理解】 ・ 結婚披露宴におけるコーディネイトや演出の提案ができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 ブライダルの歴史と風習 第 3 回 ブライダルビジネスとトレンドについて 第 4 回 ブライダルの演出について【ゲストスピーカー】 第 5 回 テーブルコーディネイト、演出 第 6 回 接客シミュレーション(カウンセリング) 第 7 回 接客シミュレーション(プランニング) 第 8 回 ブライダルの現場【学外研修】 第 9 回 結婚披露宴プランニング(ディスカッション) 第 10 回 結婚披露宴プランニング(調査) 第 11 回 結婚披露宴プランニング(考案) 第 12 回 プレゼンテーション 第 13 回 プランナーに必要なスキル【ブライダルコーディネイト模擬テスト 1】 第 14 回 プランナーに必要なスキル【ブライダルコーディネイト模擬テスト 2】 第 15 回 検定試験解答・総評 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回で行う授業内容を確認し、必要となる情報を収集しておく。(2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容を確認整理する。 模擬テストにむけて学んだことを復習する。(2時間)
授業方法	演習形式。 講義で得た学びや情報をもとにグループで課題に取り組む。 取り組んだ課題についてプレゼンテーションを行う。
履修上の注意	演習上、ブライダル演習 A を受講者が好ましい。 演習授業であるため出席を重視する。授業回数の 2/3 以上の出席を必要とする。 学外見学の際に入場料が発生する場合や往復の交通費は実費負担。 情報収集やデータ作成を行うため、各自 PC を持参する。 授業内に完成できない場合は課題とする。
教科書	「ブライダルコーディネーターテキストスタンダード」公益社団法人 日本ブライダル振興協会 ※教科書についてはファッション・ハウジングデザイン学科準備室で購入手続きをすること。
参考書	必要に応じて授業内で紹介する。

■ ■ 時間割

曜日 時限	月	火	水	木	金
I 9:00～ 10:30			フランス語ⅡA —前期(打田)	発達心理学A —前期(久津木) 神戸の食と文化 —前期(江)	心理療法C —前期(坂本) 色彩学 —前期(花田)
			フランス語ⅡB —後期(打田) 教育・学校心理学 —後期(黒崎)	発達心理学B —後期(久津木)	
II 10:40～ 12:10	演劇とパフォーマンスの歴史 —前期(柘井) 神戸論 —前期(江)	ビジネス中国語A —前期(古川)		こころの健康 —前期(中井) コンピューティングA —前期(Spaelti) 食生活論 —前期(川口)	ブライダル演習A —前期(西川)
	演劇と現代社会 —後期(柘井)	ビジネス中国語B —後期(古川) 文法の基礎知識 —後期(田附)	日本書道史 —後期(丸山) 青年期の臨床心理学 —後期(黒崎)	コンピューティングB —後期(Spaelti) 化粧品心理学 —後期(鳥居)	
III 13:10～ 14:40		諸宗教とキリスト教 —前期(木鎌) こころの健康 —前期(中井)		韓国語コミュニケーションA —前期(金)	中国語通訳翻訳演習 —前期(古川) 感情・人格心理学 —前期(山本)
	古典文学特殊講義 —後期(長谷川)	デジタルデザイン論 —後期(山本) インテリア史 —後期(鈴木)	被害者支援の心理学 —後期(大和田)	現代社会とキリスト教 —後期(木鎌) 韓国語コミュニケーションB —後期(金)	心理療法D —後期(小松)
IV 14:50 ～16:20		神戸研究総論 —前期(田附) 英語コミュニケーション概論A —前期(川中) アジア文化入門A —前期(金)	Essential Intercultural Studies A —前期(Shiobara) 家族文化論 —前期(稲見)	社会心理学 —前期(待田)	
		英語コミュニケーション概論B —後期(川中) アジア文化入門B —後期(古川) ジェンダーとファッション —後期(戸田)	Essential Intercultural Studies B —後期(Shiobara)		対人コミュニケーション論 —後期(待田) ブライダル演習B —後期(西川)

注)教室は、開講時にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」にてご案内いたします。

■ 注意事項

- 前年とほぼ同じ授業内容の科目もあります。再受講を希望される方は、授業内容を確認の上、受講してください。
- シラバスは本要項記載のものより、多少の変更がある場合があります。
- 教科書、参考書は各授業の内容をご覧の上、ご購入ください。教科書リストは受講手続きの際にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」に掲載します。
- 各授業では学習支援システム「松蔭 manaba」を使用いたします。
- パソコン持参の科目があります。シラバスを確認してください。
- 休講等の諸連絡はすべて「松蔭ポータル」という WEB システムを通じて行います。詳細については、受講手続きの際にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」に掲載しますので、ご確認ください。
- 学生割引・通学証明書等は交付いたしません。また、本学の諸設備の利用について制限が設けられることがあります。
- 学内への自動車乗入れはご遠慮ください。
- 途中で受講を取り消される場合には、必ず教務課までご一報の上授業公開講座受講生証をお返してください。
- 授業公開講座受講生としてふさわしくない行為があると認められる場合、その受講をお断りすることがあります。
- 対面授業、遠隔授業があります。各科目の授業内容・授業計画に掲載されている「授業方法」をご覧ください。

1 社会人編入学制度

(女性のみ)

変化の激しい時代の中で、さらなるスキルアップを目指したい、大学で学び直したいと希望している社会人女性に、本学学生とともに、世代を超えて互いに啓発し、学びあえる場を提供することを目的としています。(2026年4月1日現在で満35歳以上の方が対象。)学費は社会人特別編入学の減免措置を全員に適用し、学びやすい設定になっています。詳細は、6月頃大学公式サイトに掲載予定です。

■問 合 せ:神戸松蔭大学 入試・広報課 TEL.078-882-6123

2 科目等履修生制度

本学では、1993年度より科目等履修生制度を設けて、生涯学習の推進を図り、広く一般の方々に学修の機会を提供しております。

科目等履修生制度は、大学が開設する授業科目の中から特定の授業科目だけを履修し、試験等に合格した場合に本学の正規の単位が授与される制度で、履修期間は1年以内です。

短期大学を卒業した方および大学において2年以上在学し、62単位修得した方が、この制度により大学の科目等履修生として修得した単位を加算することにより、学位授与機構の修得単位の審査および学修成果・試験の審査を経て、学士の資格が取得できるようにもなっています。学位の取得に関しては「独立行政法人 大学評価・学位授与機構」のホームページでご確認ください。

■出願期間:1期 2025年2月3日(月)~3月7日(金)【全科目対象】

2期 2025年7月1日(火)~7月25日(金)【後期科目のみ対象】

■問 合 せ:神戸松蔭大学 教務課 科目等履修生係 TEL.078-882-6133

3 神戸松蔭公開講座

★無料・申込み不要(男女不問)

本学では、大学および大学の付置する諸研究所・機関等の研究・教育の成果、および本学の持つ知的・教育的資源を地域に還元し、地域社会に根ざした大学を目指して各種の公開講座を開催しています。

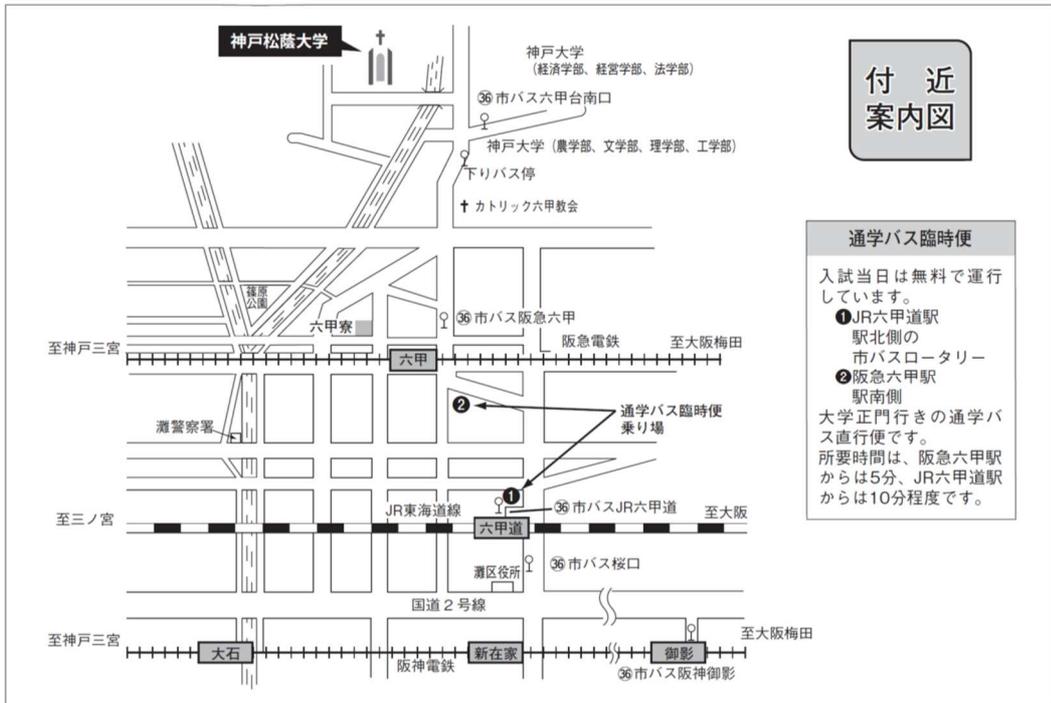
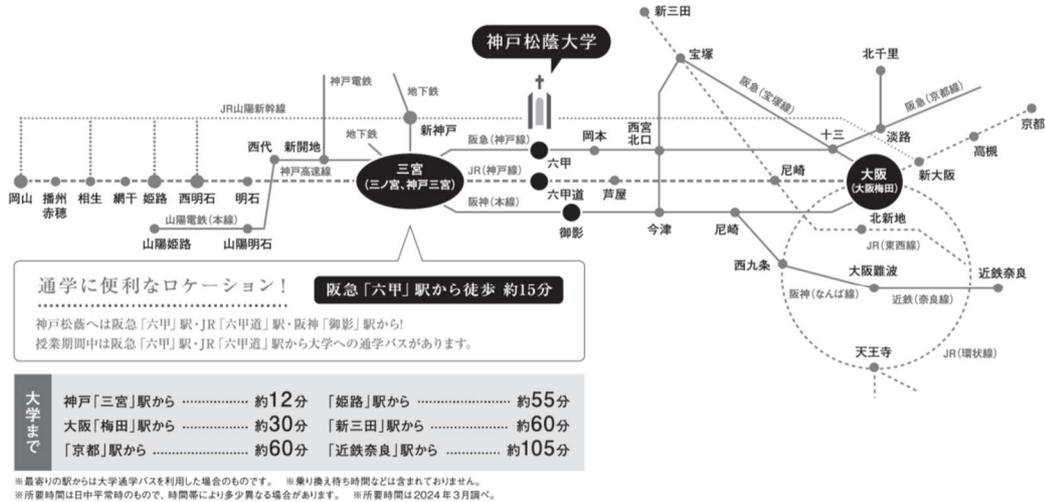
詳細は、ホームページでお確かめください。

■問 合 せ:神戸松蔭大学 企画課 TEL.078-882-6159

■ ■ 学内案内図



■ ■ 本学の位置及び交通機関



大阪（梅田）から最寄りの駅までのアクセス

- 阪急大阪梅田駅から岡本駅まで特急で約20分、普通に乗り換え阪急六甲駅まで約5分。
- JR大阪駅から六甲道駅まで快速で約23分。

神戸（三宮）から最寄りの駅までのアクセス

- 阪急神戸三宮駅から阪急六甲駅まで普通で約7分。
- JR三ノ宮駅から六甲道駅まで快速で約4分。

最寄り駅から大学までのアクセス

- 阪急六甲駅から山側へ徒歩約15分。
- 阪急六甲、JR六甲道、阪神御影各駅から市バス36系統鶴甲団地行き乗車、六甲台南口下車、山側へ徒歩約5分。

入学試験日には、JR六甲道駅と阪急六甲駅から本学までの通学バス臨時便（無料）を運行します。バスの運行時間は、公式サイトでご確認ください。

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

神戸松蔭女子学院大学

教務課 TEL 078-882-6133

公式ホームページ URL <https://www.shoin.ac.jp>